

科目名	プレゼンテーション (FB26A010)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	工学部,総合情報学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスおよびプレゼンテーションの基本について説明する 講義の概要、進め方、評価方法等を説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2回	プレゼンテーションの準備について説明する。 プレゼンテーションを行うために、どのような準備をすればよいかを説明する。また、プレゼンテーションの構成や心得について説明する。
3回	プレゼンテーションの進め方について説明する。 話し方やコミュニケーション(非言語も含む)について説明する。
4回	効果的なプレゼンテーションの技法を説明する。 PowerPoint実習を行いつつ、相手に伝わるスライドの構成について説明する
5回	スライド作成の実践 趣味の紹介のスライド作成を行う。 趣味の概要、 趣味の楽しさ、 趣味の奥深さ、 自分の趣味への誘いの4枚のスライドを作成する。
6回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
7回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8回	1回目から7回目の総括を説明し、グループ編成を行う。
9回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を決定する。
10回	決定した方法にしたがい、参考文献の収集しながら、調査分析を行う。
11回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。
12回	よいプレゼンテーションについて説明する。 プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。
13回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。
14回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。
15回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。
16回	9回目～15回目の総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。また、これまで学んだことで、関連する内容を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションが説明できるようにしておくこと(標準学修時間120分)
3回	プレゼンテーションの基本的構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
4回	プレゼンテーションにおけるコミュニケーション言動の要素について理解しておくこと(標準学修時間120分)
5回	PowerPointの操作方法について確認しておくこと(標準学修時間120分)
6回	PowerPointを使ってプレゼンスライドを完成させ、発表ができるよう準備を整えておくこと(標準学修時間120分)
7回	復習として、目的を明確にした内容にまとめておくこと。 予習として、相手を引き付ける工夫を考えておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を復習しておくこと(標準学修時間120分)
9回	課題を考えてくること(標準学修時間120分)
10回	調べた内容をまとめる。 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する(標準学修時間120分)

1 1 回	スライドの構成を考えてくること（標準学修時間120分）
1 2 回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること（標準学修時間120分）
1 3 回	プレゼンテーションの練習を行うこと（標準学修時間120分）
1 4 回	原稿を見ないでプレゼンテーションができるようにすること（標準学修時間120分）
1 5 回	原稿を見ないでプレゼンテーションができるようにすること（標準学修時間120分）
1 6 回	これまでの学習を整理しておくこと（標準学修時間120分）

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。 そのため、設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、発表のフィードバックを行うことで改善点を検討し、学会発表や研究発表等で効果的に行えるようにプレゼンテーションスキルの修得を目指す。 （教養教育センター単位認定のEにもっとも強く関与する）
達成目標	パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる（E） 図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる（E） 自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる（E） 自分の考えや主張を相手に伝えることができる（E） 特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる（E） 自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる（E） 聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる（E）
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
成績評価（合格基準60	・実際のプレゼンテーションを評価する（50％） 発表内容の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・小テスト（25％） ・ワークシート（25％） より、成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。 5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論、地域フィールドスタディ、プレゼンテーション、文章表現法、文章表現法
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・パワーポイントを利用した実習を行う。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB26B010)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 自己体験を言語化し、他人に伝えるポイントを説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。「中間評価試験」を実施する。
9回	「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
10回	「将来したい事」を通じて自己体験の分析をする。
11回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい(事)」を指導する。
12回	「将来したい(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
13回	「私のターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
14回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「私のターニングポイント」を指導する。
15回	「私のターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
16回	「最終評価試験」を実施する。授業内容の確認をする。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6回	予習：「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習：「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)

7 回	予習： 「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8 回	予習： 「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「中間評価試験」の準備をすること。
9 回	「将来したい事」アウトラインを作成すること。 「将来したい事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
10 回	「将来したい事」文章を作成すること。 「将来したい事」キャッチコピーを修正すること。(標準学習時間120分)
11 回	「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
12 回	「私のターニングポイント」アウトラインを作成すること。 「私のターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
13 回	「私のターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。 「私のターニングポイント」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
14 回	「私のターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
15 回	総括として「すごいお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピーの完成文を提出すること。 (標準学習時間120分)
16 回	「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。 個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価(合格基準)	60 テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの(事)」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26B020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)

	時間120分)
1 4 回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)
1 5 回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと(標準学修時間120分)
1 6 回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる(E) 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる(E) マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる(E) グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる(E) 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる(E) 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる(E) レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる(E) ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる(E)
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
成績評価(合格基準60)	・ワークシート(30%) ・小テスト(30%) ・課題提出(40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F(松尾研究室) E-Mail:matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	生涯スポーツ (FB26C010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	山口立雄* (やまぐちたつお*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理などの説明) をする。 履修希望者数が60人を超えた場合、抽選を行う。優先履修を希望する場合は事前に申し出る事。
2回	バドミントンの基礎とゲーム (単戦) をおこなう。
3回	バドミントンのゲーム (復戦) をおこなう。
4回	第一回班別学習。テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎をおこなう。
5回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう (前週の継続)。
6回	第二回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
7回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう (前週の継続)。
8回	第三回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
9回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう (前週の継続)。
10回	第四回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
11回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう (前週の継続)。
12回	卓球の基礎とゲーム (単戦) をおこなう。
13回	卓球の基礎とゲーム (復戦) をおこなう。
14回	第五回班別学習。班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。
15回	第六回班別学習。班替えをして班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。筆記試験を行う。

回数	準備学習
1回	本授業で取り上げるスポーツ種目について、希望順位を決めておくこと。(標準学習時間60分)
2回	バドミントンの基本技術と単戦のルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	バドミントン復戦のルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
8回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
9回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
11回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
12回	卓球の基礎技術とルール (単戦) について調べておくこと。(標準学習時間60分)
13回	卓球の基礎技術とルール (復戦) について調べておくこと。(標準学習時間60分)
14回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
15回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。 本授業で取り上げたスポーツ種目に関する事項を復習しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯のライフステージにおいて、それぞれの環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を養う。スポーツ活動を観戦、支援 (ボランティア) する
------	--

	楽しさも身につけたい。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	各種スポーツのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。 スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフ、バレーボール、フットサル、 バスケットボール、卓球、スポーツ傷害
成績評価（合格基準60）	各種スポーツの進行、運営（30％）、知識（30％）、技術（30％）、安全への配慮（10％） により 成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツ ・ 、健康の科学、福祉環境論
教科書	使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	自宅mail：tyama@po.oninet.ne.jp
注意・備考	・第1回目の授業は、C1号館2階（トレーニングルーム：柔道場）で行う。2回目以降は加計記念体育館等で行います。四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！ ・第1回目の授業には必ず出席すること。 ・60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため） 抽選で受講できなくなった場合、次週以降の受講は認めません。 ・用具、場所の都合で種目および実施順が変更になることがあります。 ・実施種目に関する筆記試験を適宜行います。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB26C020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 自己体験を言語化し、他人に伝えるポイントを説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。「中間評価試験」を実施する。
9回	「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
10回	「将来したい事」を通じて自己体験の分析をする。
11回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい(事)」を指導する。
12回	「将来したい(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
13回	「私のターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
14回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「私のターニングポイント」を指導する。
15回	「私のターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
16回	「最終評価試験」を実施する。授業内容の確認をする。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6回	予習：「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習：「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)

7 回	予習： 「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8 回	予習： 「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「中間評価試験」の準備をすること。
9 回	「将来したい事」アウトラインを作成すること。 「将来したい事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
10 回	「将来したい事」文章を作成すること。 「将来したい事」キャッチコピーを修正すること。(標準学習時間120分)
11 回	「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
12 回	「私のターニングポイント」アウトラインを作成すること。 「私のターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
13 回	「私のターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。 「私のターニングポイント」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
14 回	「私のターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
15 回	総括として「すごいお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピーの完成文を提出すること。 (標準学習時間120分)
16 回	「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。 個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価(合格基準)	60 テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの(事)」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26C030)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
3回	「レポートの書き方」について説明する。
4回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7回	「知る」と「人生」について説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8回	「言葉の違い」について説明する。 ●中間評価試験
9回	「日本を知る(1)」について説明する。
10回	「日本を知る(2)」について説明する。
11回	「日本を知る(3)」について説明する。
12回	「読書のすすめ」について説明する。
13回	「自己啓発(1)」について説明する。
14回	「自己啓発(2)」について説明する。
15回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
16回	「敬語の使い方」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
2回	将来の目標について考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 (標準学習時間120分)
4回	「作文」と「小論文」の違いについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	現代社会の「キーワード」「用語」について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
8回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて調べておくこと。 (標準学習時間120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。(標準学習時間180分)
9回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
12回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
13回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
14回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間120分)

15回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
16回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	1. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 2. 論理的な思考力を養い、社会人として必要な文章表現上の知識や技術を身に付ける。 3. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 4. 「読書」をする目的・意義を理解し、人生を豊かにしてくれたり、生きる指針や勇気を与えてくれることや、知識や知恵を学べる(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与すること)に取り組む。 5. グローバリゼーション(国境がない)の状況において、外国人に、日本の良さをアピールする大切さを学ぶ。
達成目標	1. 論理的で、説得力のある「小論文」を書くことができる。 2. 教科書「60歳からの健康人生」から、文章の構成、表現、用語・用字などの、正しい使い方を習得し、適切な文章を書くことができる。 3. 「自己啓発」に取り組むことができる。 4. 「読書感想文」が書けるようになる。 5. 「日本の世界遺産」(現在21件)の内容・特色を理解し、外国人に、日本の良さを紹介することができるようになる。
キーワード	・目的意識 ・基礎知識 ・実行力
成績評価(合格基準60)	[春学期] 1. 授業における提出課題+時間外における提出課題 ... 50% 2. 中間評価試験 ... 50% ●1.と2.の総計で、得点率60%以上を合格とする。 [秋学期] 3. 授業における「提出課題」「小テスト」+ 時間外における「提出課題」 ... 50% 4. 最終評価試験 ... 50% ●3.と4.の総計で、得点率60%以上を合格とする。
関連科目	・プレゼンテーション基礎編
教科書	・「60歳からの健康人生」/ 執筆者代表 崎重敏幸 / 株式会社 ライフ・サポート / ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	・適宜指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
注意・備考	[春学期] ・授業における「課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切日後の2週間後の授業の初めに返却する。 [秋学期] ・授業における「課題」「小テスト」については、授業終了後、提出させ、「課題」については、指導内容をチェックしたものを、「小テスト」については、授業中の学生間の相互採点の結果を確認したものを、それぞれ、次々回の授業の初めに返却する。

	・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切後の2週間後の授業の初めに返却する。 [春学期・秋学期共通] ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26C040)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)

	時間120分)
1 4 回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)
1 5 回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと(標準学修時間120分)
1 6 回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる(E) 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる(E) マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる(E) グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる(E) 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる(E) 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる(E) レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる(E) ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる(E)
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
成績評価(合格基準60)	・ワークシート(30%) ・小テスト(30%) ・課題提出(40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F(松尾研究室) E-Mail:matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	プレゼンテーション (FB26C050)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概説 をする
2回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
3回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
4回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
5回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
6回	PowerPoint資料の改良 をする
7回	PowerPoint資料を使ったりリハーサル・プレゼンテーション をする
8回	プレゼンテーション全体構成の再確認 中間試験 をする
9回	別テーマによる二本目プレゼンテーション準備 をする
10回	要点を押さえたスクリプトに改良 をする
11回	説得力のある実証的なスクリプトに改良 をする
12回	無駄のない効果的なパワーポイント資料に改良 をする
13回	インパクトのあるパワーポイント資料に改良 をする
14回	リハーサル・プレゼンテーション をする
15回	最終プレゼンテーション をする
16回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験 をする

回数	準備学習
1回	なし
2回	スクリプト準備 すること
3回	スクリプト修正 すること
4回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
5回	プレゼンテーション改良 すること
6回	PowerPointの作成 すること
7回	PowerPointの修正 すること
8回	学習内容の整理 すること
9回	基本構想・アイデアを準備すること
10回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
11回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
12回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
13回	スクリプト・PowerPoint資料準備 すること
14回	最終プレゼンテーション準備 すること
15回	最終プレゼンテーション準備の仕上げ すること
16回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	PowerPointを用いながらプレゼンテーションにおける非言語的要素の重要性を理解した発表を行うことができることを目指す。(パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、アピールポイントの軸のぶれない内容構成、など)
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
成績評価(合格基準60)	課題添削・修正作業(40%)、中間提出(40%)、最終評価試験(最終提出)(20%)の総合評価
関連科目	文章表現法、およびその他のプレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp

注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB26D010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	山口立雄* (やまぐちたつお*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理などの説明) をする。 履修希望者数が60人を超えた場合、抽選を行う。優先履修を希望する場合は事前に申し出る事。
2回	バドミントンの基礎とゲーム (単戦) をおこなう。
3回	バドミントンのゲーム (復戦) をおこなう。
4回	第一回班別学習。テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎をおこなう。
5回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう (前週の継続)。
6回	第二回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
7回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう (前週の継続)。
8回	第三回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
9回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう (前週の継続)。
10回	第四回班別学習。班替えをしてテニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう。
11回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフのゲームをおこなう (前週の継続)。
12回	卓球の基礎とゲーム (単戦) をおこなう。
13回	卓球の基礎とゲーム (復戦) をおこなう。
14回	第五回班別学習。班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。
15回	第六回班別学習。班替えをして班別にバレーボール、バスケットボール、フットサルを行う。筆記試験を行う。

回数	準備学習
1回	本授業で取り上げるスポーツ種目について、希望順位を決めておくこと。(標準学習時間60分)
2回	バドミントンの基本技術と単戦のルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	バドミントン復戦のルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
8回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
9回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
11回	テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
12回	卓球の基礎技術とルール (単戦) について調べておくこと。(標準学習時間60分)
13回	卓球の基礎技術とルール (復戦) について調べておくこと。(標準学習時間60分)
14回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
15回	バレーボール、バスケットボール、フットサルの基礎技術とルールについて調べておくこと。 本授業で取り上げたスポーツ種目に関する事項を復習しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯のライフステージにおいて、それぞれの環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を養う。スポーツ活動を観戦、支援 (ボランティア) する
------	--

	楽しさも身につけたい。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	各種スポーツのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。 スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、ソフトテニス、ターゲットバードゴルフ、バレーボール、フットサル、 バスケットボール、卓球、スポーツ傷害
成績評価（合格基準60）	各種スポーツの進行、運営（30％）、知識（30％）、技術（30％）、安全への配慮（10％） により 成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツ ・ 、健康の科学、福祉環境論
教科書	使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	自宅mail：tyama@po.oninet.ne.jp
注意・備考	・第1回目の授業は、C1号館2階（トレーニングルーム：柔道場）で行う。2回目以降は加計記念体育館等で行います。四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！ ・第1回目の授業には必ず出席すること。 ・60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため） 抽選で受講できなくなった場合、次週以降の受講は認めません。 ・用具、場所の都合で種目および実施順が変更になることがあります。 ・実施種目に関する筆記試験を適宜行います。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB26D020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
3回	「レポートの書き方」について説明する。
4回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7回	「知る」と「人生」について説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8回	「言葉の違い」について説明する。 ●中間評価試験
9回	「日本を知る(1)」について説明する。
10回	「日本を知る(2)」について説明する。
11回	「日本を知る(3)」について説明する。
12回	「読書のすすめ」について説明する。
13回	「自己啓発(1)」について説明する。
14回	「自己啓発(2)」について説明する。
15回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
16回	「敬語の使い方」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
2回	将来の目標について考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 (標準学習時間120分)
4回	「作文」と「小論文」の違いについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	現代社会の「キーワード」「用語」について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
8回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて調べておくこと。 (標準学習時間120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。(標準学習時間180分)
9回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
12回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
13回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間120分)
14回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間120分)

15回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間120分)
16回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	1. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 2. 論理的な思考力を養い、社会人として必要な文章表現上の知識や技術を身に付ける。 3. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 4. 「読書」をする目的・意義を理解し、人生を豊かにしてくれたり、生きる指針や勇気を与えてくれることや、知識や知恵を学べる(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与すること)に取り組む。 5. グローバリゼーション(国境がない)の状況において、外国人に、日本の良さをアピールする大切さを学ぶ。
達成目標	1. 論理的で、説得力のある「小論文」を書くことができる。 2. 教科書「60歳からの健康人生」から、文章の構成、表現、用語・用字などの、正しい使い方を習得し、適切な文章を書くことができる。 3. 「自己啓発」に取り組むことができる。 4. 「読書感想文」が書けるようになる。 5. 「日本の世界遺産」(現在21件)の内容・特色を理解し、外国人に、日本の良さを紹介することができるようになる。
キーワード	・目的意識 ・基礎知識 ・実行力
成績評価(合格基準60)	[春学期] 1. 授業における提出課題+時間外における提出課題 ... 50% 2. 中間評価試験 ... 50% ●1.と2.の総計で、得点率60%以上を合格とする。 [秋学期] 3. 授業における「提出課題」「小テスト」+ 時間外における「提出課題」 ... 50% 4. 最終評価試験 ... 50% ●3.と4.の総計で、得点率60%以上を合格とする。
関連科目	・プレゼンテーション基礎編
教科書	・「60歳からの健康人生」/ 執筆者代表 崎重敏幸 / 株式会社 ライフ・サポート / ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	・適宜指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
注意・備考	[春学期] ・授業における「課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切日後の2週間後の授業の初めに返却する。 [秋学期] ・授業における「課題」「小テスト」については、授業終了後、提出させ、「課題」については、指導内容をチェックしたものを、「小テスト」については、授業中の学生間の相互採点の結果を確認したものを、それぞれ、次々回の授業の初めに返却する。

	・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切後の2週間後の授業の初めに返却する。 [春学期・秋学期共通] ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26D030)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「文章表現法」講義概説 をする。
2回	文章の構成、アウトライン をする。
3回	アウトライン作成 をする。
4回	アウトラインの推敲 をする。
5回	アウトラインの完成 をする。
6回	序論・本論・結論の作成 1 をする。
7回	序論・本論・結論の作成 2 をする。
8回	小論文構成の再確認、 中間試験をする。
9回	序論・本論・結論の作成 4 をする。
10回	800字小論文の完成・提出 をする。
11回	別テーマによる二本目論文の作成 をする。
12回	アウトライン添削・修正 をする。
13回	800字小論文作成 をする。
14回	800字小論文添削・修正 をする。
15回	800字小論文の完成 をする。
16回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする。

回数	準備学習
1回	なし
2回	なし
3回	課題テーマの草案 を作ること。(標準学習時間60分)
4回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
5回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
6回	アウトラインの仕上げ すること。(標準学習時間60分)
7回	800字小論文、序論の作成 すること。(標準学習時間60分)
8回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認すること。(標準学習時間60分)
9回	800字小論文、結論の作成 すること。(標準学習時間60分)
10回	800字小論文の仕上げ すること。(標準学習時間60分)
11回	アウトラインの復習 すること。(標準学習時間60分)
12回	アウトライン作成 1 すること。(標準学習時間60分)
13回	アウトライン作成 2 すること。(標準学習時間60分)
14回	800字小論文作成 すること。(標準学習時間60分)
15回	800字小論文仕上げ をすること。(標準学習時間60分)
16回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	小論文、レポートなどの作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を知り、認識し、そして実現すること(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章の構成をあやつる「アウトライン」の重要性を理解し、それに基づいて800字の小論文を独力で完成できること。
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
成績評価(合格基準60)	課題添削・修正作業(40%)、中間提出(40%)、最終評価試験(最終提出)(20%)の総合評価
関連科目	プレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp

注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。（自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す）
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26G010)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)

	時間120分)
1 4 回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)
1 5 回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと(標準学修時間120分)
1 6 回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる(E) 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる(E) マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる(E) グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる(E) 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる(E) 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる(E) レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる(E) ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる(E)
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
成績評価(合格基準60)	・ワークシート(30%) ・小テスト(30%) ・課題提出(40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F(松尾研究室) E-Mail:matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	生涯スポーツ (FB26H010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2 回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3 回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4 回	バドミントンのゲームをおこなう。
5 回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6 回	1 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7 回	2 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8 回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 0 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 1 回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
1 2 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 3 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 4 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
1 5 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯の各ライフステージにおいて、それぞれの環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に配慮しながら計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に 努める態度や能力を養う。 (教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの文化やルールを理解するとともに、実践し、他者と協同してゲームの進行、運営が出来ること。(D) スポーツ傷害の予防ができること。(D)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
成績評価 (合格基準60)	各種スポーツの進行、運営 (30%)、知識と技術 (60%) 安全への配慮 (10%)
関連科目	生涯スポーツ、健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村 (次) 研究室
注意・備考	初回はC 1 号館柔道場でガイダンスを行う。生涯スポーツは加計記念体育館で実施する。 四季を味わいながら山越えウォーキングを楽しみましょう！ 体育館シューズ、体操着を持参すること。受講者数の上限を60名とする。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB26H020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)

	時間120分)
1 4 回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)
1 5 回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと(標準学修時間120分)
1 6 回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる(E) 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる(E) マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる(E) グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる(E) 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる(E) 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる(E) レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる(E) ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる(E)
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
成績評価(合格基準60)	・ワークシート(30%) ・小テスト(30%) ・課題提出(40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F(松尾研究室) E-Mail:matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間 (FB26H030)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	工学部(～15), 総合情報学部(～15), 経営学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
2回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行う。
3回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
4回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
5回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
6回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
7回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
8回	前半の講義をまとめ、中間テストを実施する。
9回	後半の講義について概説する。
10回	企業をめぐる様々な問題を取り上げ、その背景について解説する。
11回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
12回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
13回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
14回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
15回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
16回	後半の講義をまとめ、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
8回	予習：中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストを自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間30分)
10回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
11回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
12回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
13回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
14回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
15回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
16回	予習：最終評価試験の準備をして来ること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業組織の特徴および企業と個人の関係を理解し、自身のキャリアデザインを具体化するための視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価（合格基準60	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	ボランティア論
教科書	世良利和 / 「企業と人間」 / 蜻文庫（2018年9月刊行予定）
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 5. 70名程度を目安に受講制限を行うことがある。 6. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 7. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	教養演習（FB26H040）
英文科目名	Seminar on Liberal Arts
担当教員名	高池久隆（たかいけひさたか）
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	工学部（～15）、総合情報学部（～15）、経営学部（～15）
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生に、自己紹介などをまじえた 5 分程度の発表を順番に行なうことを求め、発表・質疑応答の際心がけるべきことについての説明をする。（ 1 ）
3 回	受講生に、自己紹介などをまじえた 5 分程度の発表を順番に行なうことを求め、発表・質疑応答の際心がけるべきことについての説明をする。（ 2 ）
4 回	受講生に、自己紹介などをまじえた 5 分程度の発表を順番に行なうことを求め、発表・質疑応答の際心がけるべきことについての説明をする。（ 3 ）
5 回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。（ 1 ）
6 回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。（ 2 ）
7 回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。（ 3 ）
8 回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。（ 4 ） 中間試験を実施する。 試験終了後解説をする。
9 回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。（ 1 ）
1 0 回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。（ 2 ） 発表用レジュメ作成についての説明をする。
1 1 回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。（ 3 ）
1 2 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。（ 1 ）
1 3 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。（ 2 ）
1 4 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。（ 3 ）
1 5 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。（ 4 ）
1 6 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。（ 5 ） 最終評価試験を実施する。 試験終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	自分自身の特徴について整理しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	故郷の言語的特徴について調べておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	岡山の文化的特徴について調べておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
7 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 0 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）

16回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間120分）
講義目的	この演習は次の2つを柱とする。 1) 教員側が選んだ新聞記事を読みながら議論をする。 2) 各受講者が関心を持つ問題（分野を問わない）についての簡単な個人発表を行なう。 上記のような作業を行なうことにより、思考能力、表現能力の向上を目指す。 （教養教育センター 単位認定の方針Eにもっとも強く関与。）
達成目標	様々なテーマに対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行なえること。
キーワード	比較文化、異文化理解、討論
成績評価（合格基準60	中間試験（50%）、最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	比較文化論
教科書	使用しない。（プリントを配布する。）
参考書	適宜指示する。
連絡先	B1号館2階 高池研究室
注意・備考	・受講者数の上限を50名とする。 ・中間試験・最終評価試験終了後解説を行なう。 ・プリントの配布は授業中に行なう。 ・授業中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	教職のための文章表現法 (FB26H080)
英文科目名	Technical Writing for the Teaching Profession
担当教員名	皿田琢司 (さらたたくじ)
対象学年	3 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部(16～),工学部(16～),総合情報学部(16～),生物地球学部(16～),経営学部(16～)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。教員採用試験における論作文の出題傾向を踏まえ、講義概要と受講要領について理解を図るとともに、教員に求められる資質・能力に基づいて文章作成力（構成と表現の技法）の意義を考察する。
2 回	「読まれる」小論文をめざして。小論文の組み立てと表現技法に関する基本的事項について理解を図る。第 1 課題（教職の志望動機、理想の教師像、使命感・職業観等）の作成を指示し、作成要領の要点について理解を図る。
3 回	第 1 課題の検討。グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を検討し合い、指導講評を行う。
4 回	第 1 課題の再検討。修正版について、グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を再検討し合い、指導講評を行う。
5 回	第 1 課題の実践的検討。再修正版のうち 1 答案について、グループ討議を通して知識活用、文章構成、表現技法を実践的に検討し合い、指導講評を行う。
6 回	要約練習（その 1）。最近の新聞から教育を主題とする社説を複数取り上げ、要約を試みるとともに、グループ討議を通して文章構成と表現技法を分析する。 第 2 課題（実践的指導力〔識見、指導方針、方法原理等〕）を提示するとともに答案の作成を指示し、作成要領の要点について理解を図る。
7 回	第 2 課題の検討。グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を検討し合い、指導講評を行う。
8 回	第 2 課題の再検討。修正版について、グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を検討し合い、指導講評を行う。
9 回	第 2 課題の実践的検討。再修正版のうち 1 答案について、グループ討議を通して知識活用、文章構成、表現技法を実践的に検討し合い、指導講評を行う。
10 回	要約練習（その 2）。最近の新聞から教育を主題とする社説を複数取り上げ、要約を試みるとともにグループ討議を通して文章構成と表現技法を分析する。 第 3 課題（児童生徒の理解と対応のあり方）の作成を指示し、作成要領の要点について理解を図る。
11 回	第 3 課題の検討。グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を検討し合い、指導講評を行う。
12 回	第 3 課題の再検討。修正版について、グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を再検討し合い、指導講評を行う。
13 回	第 3 課題の実践的検討。再修正版のうち 1 答案について、グループ討議を通して知識活用、文章構成、表現技法を実践的に検討し合い、指導講評を行う。
14 回	要約練習（その 3）。最近の新聞から教育を主題とする複数の社説を取り上げ、要約を試みるとともにグループ討議を通して文章構成と表現技法を分析する。
15 回	総括と最終課題の提示。第 1～3 課題共通の出題のねらいについて再確認を促すとともに、最終課題の作成・提出要領を指示する。知識活用力、文章構成力、表現力を高めるための継続的な研究と修養の意義について理解の深化を図り、具体的な取り組みを勧奨する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	受験予定の都道府県市の教員採用試験で出題された論作文の過去 3 年分（内容・形式）を確認しておくこと。各自のOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。（標準学習時間：80分）
2 回	教職関連科目の学修を通して修得してきた知見を総復習するとともに、文科省の諮問機関・教育政策や受験予定の都道府県市から公表されている教育施策・教員像に基づいて前時に控えた出題の傾向を分析し、自らの専攻分野に照らして指導に反映できそうな具体的題材を整理しておくこと。（標準学習時間：100分）
3 回	前時の授業で提示された設問から 1 つを選び、所定の要領で答案を作成しておくこと。平常の課題

	の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）
4 回	前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）
5 回	前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）
6 回	前時までの学習に基づいて答案を練り直し、所定の制限時間内に完成できるよう訓練を重ねるとともに、完成原稿を提出できるようにしておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）
7 回	前時の授業で扱われた記事中の表現のうち、学習指導に適したものをを用いて文例作りを練習し、活用できるよう習得に努めること。前時の授業で提示された設問から1つを選び、所定の要領で答案を作成しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：120分）
8 回	前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）
9 回	前時までの学習に基づいて答案を再度見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）
10 回	前時までの学習に基づいて答案を練り直し、所定の制限時間内に完成できるよう訓練を重ねるとともに、修正版を完成原稿として提出できるようにしておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）
11 回	前時の授業で扱われた記事中の表現のうち、学習指導に適したものをを用いて文例作りを練習し、活用できるよう習得に努めること。前時の授業で提示された設問から1つを選び、所定の要領で答案を作成しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：120分）
12 回	前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）
13 回	前時までの学習に基づいて答案を再度見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）
14 回	前時までの学習に基づいて答案を練り直し、所定の制限時間内に完成できるよう訓練を重ねるとともに、修正版を完成原稿として提出できるようにしておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：120分）
15 回	前時の授業で扱われた記事中の表現のうち、学習指導に適したものをを用いて文例作りを練習し、活用できるよう習得すること。最終課題の作成・提出要領を再確認し、提出課題を読み直しておくこと。（標準学習時間：180分）
16 回	最終課題で選択しなかった設問の答案修正に努めるとともに、これまでの学習全体を振り返り、到達目標に照らして各自の課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間：80分。なお、授業後も学修を継続することが望ましい）

講義目的	次のことを受講者が修得することを目的とする。 1．いわゆる教員採用試験の論作文問題に有効に対応できる文章作成の基礎 2．中学校または高等学校の教員に求められる文章構成力・表現力の基礎 （教養教育センター単位認定方針Eのうち、中学校または高等学校教員に必要な知識を活用した文章力に關与）
達成目標	1．文章表現法基礎編・応用編の学習目標を十分に達成した上で、教員に求められる資質・能力の一つとして文章構成力・表現力を身につけている意義を簡潔に説明できること。 2．教職に関する授業科目で修得した知見や自ら収集した教職に関する時事情報等をもとに、適切な表現を用い、与えられた主題に即して自らの考えを800～900字程度の文章にまとめることができること。
キーワード	教職、教員採用試験、教員試験、論述試験、知識活用、文章構成、文章表現、文章作法、小論文、論作文
成績評価（合格基準60）	小テスト（10%程度）、平常の課題（30～40%）、最終課題（20%程度）、最終評価試験（30～40%）
関連科目	○1～2年次開講C群科目（基礎理学科生は教育学原論、教育心理学に代えてそれぞれ教育基礎論、学習・発達論）及び文章表現法基礎編・応用編をいずれも良好な成績で修得していることが望ましい。 ○教育実習事前・事後指導を同時に履修中であることが望ましい。 ○本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。
教科書	刊行物の形態のものは使用しない。配付資料を適宜用いる。
参考書	受験予定（勤務希望）校種の学習指導要領（最新年度版）。文科省ウェブサイトからダウンロードしプリントアウトしたものでもよい。 受験予定（担当予定）教科の学習指導要領解説。 上記2種類については常時携行し、重要な箇所を随時活用できるようにしておくこと。他の箇所についても、学習の必要に応じて参照できるようにしておくこと。 このほか適宜指示する。

連絡先	B 2 号館（旧13号館）3 階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	○30名程度以内の少人数指導とする。受講希望者が多数に上る場合には、第1回授業出席者のうち、小論文が出題される府県市の受験優先度の高い者を優先する。それでも超過する場合には、論述試験を加味した抽選を行う。 ○授業で課された完成原稿には、個別に添削することを原則とする。提出物中の共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。 ○提示物の撮影は、他の受講者の学習の妨げにならない限り認めるが、他者への再配付は、電磁的方法も含めて認めない。録音または録画を希望する場合には事前に相談すること。 ○第3講以降は、いわゆるアクティブラーニングの要素を加味した授業とする。指導計画（成績評価の配分比率を含む）は、受講状況により見直す場合がある。 ○連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 ○C 1 号館（旧25号館）7 階掲示板を授業日には必ず確認すること。 ○専攻分野・担当教科を学ぶ意義や魅力を伝えられるようになることを目的とした読書を励行していることが望ましい。 ○信頼される教員をめざそうとする強い目的意識のもと、謙虚にかつ不断に学業に取り組むことが望ましい。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間 (FB26H090)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	工学部(～15), 総合情報学部(～15), 経営学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
1 1 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 2 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 3 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 4 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 5 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 6 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
成績評価(合格基準60)	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	
注意・備考	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB26I010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2 回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3 回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4 回	バドミントンのゲームをおこなう。
5 回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6 回	1 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7 回	2 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8 回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 0 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 1 回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
1 2 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 3 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 4 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
1 5 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯の各ライフステージにおいて、それぞれの環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に配慮しながら計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に 努める態度や能力を養う。 (教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの文化やルールを理解するとともに、実践し、他者と協同してゲームの進行、運営が出来ること。(D) スポーツ傷害の予防ができること。(D)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
成績評価 (合格基準60)	各種スポーツの進行、運営 (30%)、知識と技術 (60%) 安全への配慮 (10%)
関連科目	生涯スポーツ、健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村 (次) 研究室
注意・備考	初回はC 1 号館柔道場でガイダンスを行う。生涯スポーツは加計記念体育館で実施する。 四季を味わいながら山越えウォーキングを楽しみましょう！ 体育館シューズ、体操着を持参すること。受講者数の上限を60名とする。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB261020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワークを活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)

	時間120分)
1 4 回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)
1 5 回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと(標準学修時間120分)
1 6 回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる(E) 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる(E) マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる(E) グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる(E) 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる(E) 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる(E) レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる(E) ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる(E)
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
成績評価(合格基準60)	・ワークシート(30%) ・小テスト(30%) ・課題提出(40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F(松尾研究室) E-Mail:matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	キャリア形成講座 (FB26I030)
英文科目名	Career Design
担当教員名	寺田盛紀 (てらだもりき)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	工学部(～15), 総合情報学部(～15), 経営学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【オリエンテーション】 教科書第2章に従い、キャリア形成学とはどういう学問なのかについて、キャリア教育やキャリア開発の取り組みの発展と関連させて説明する。合わせて、15回の講義内容の概要を説明する。
2 回	【第1章前半 日本におけるキャリア形成の仕組み】 このことに関して、従来の「移行モデル」について、日本的な雇用制度との関連で把握する。
3 回	【第1章後半 若者の「移行」における揺らぎ】 1990年代以降の移行における伝統的モデルの変化の様相を理解する。
4 回	【第3章 アメリカやドイツなどのキャリア教育】 学校・大学における生徒・学生のキャリア形成の計画的働きかけとしてのキャリア教育について、「母国」アメリカでのキャリア教育、ドイツのキャリア教育について写真データなどを交えて理解する。日本におけるキャリア教育の受容について比較し、共通性と差違について理解する。
5 回	【第4章】 高校を中心にして日本におけるキャリア教育の展開、教育課程上の位置づけについて、職業指導・進路指導(キャリアガイダンス)・キャリア教育という流れで把握し、教育課程上の実践形態を知る。
6 回	【第5章 高校におけるキャリア教育と進路指導の実際】 進学普通高校、進路多様型普通高校、専門(職業)高校の別にキャリア教育・進路指導の取り組みの特徴を理解する。
7 回	【ワークショップ1 自己理解】 学校現場でのキャリア支援の具体例として、また受講生自身の自己理解の演習の授業として、職業興味検査を体験する。教員が評価方を説明する。
8 回	【職業興味検査の自己評価法と中間テスト】 第7回の興味検査の自己評価を行い、これまでの中間的まとめのテストを行う。
9 回	【後半のオリエンテーションと導入としてのワークショップ2】 第8回につづき、職業観・キャリア観の形成についての知識をえるために、「キャリア・アンカー」論を講述し、実際にテスト体験を行う。
10 回	【第6章前半 高校生・大学生の職業観と職業選択 その1】 キャリア・アンカー論で見たような「職業観(価値観)」を希望進路や希望職業の生成との関連で、高校生・大学生に対する調査データを通して観察・理解する。入試や家庭教育など、教育・文化的要因の重要性が説明される。
11 回	【第6章後半 高校生・大学生の進路・職業の選択 その2】 進路や職業の選択が入学試験制度に強く作用される仕組み、また「キャリア・モデル」によって促進されたり、妨げられたりすることについて調査データを通して理解する。
12 回	【第7章 職業観とその変化・形成の仕組み】 たしか進路や職業の選択は、生徒・若者のキャリアイベント(学習や仕事などの体験)に左右されることにみついてデータを通して理解する。
13 回	【第8章 職業観と生活時間】 高校生の24時間を日本、ドイツ、韓国の生徒達を例にして、比較してみる。国や文化の差違、共通性を理解する。
14 回	【第9章 大学生のキャリア形成】 なぜ大学生のキャリア形成が問題になるのかということについて、おもに文部科学省関連の議論を追跡し、理解する。
15 回	【第10章前半 成人のキャリア形成】 企業で働く日本の成人のキャリア形成の仕組みを「日本的な労働市場」(年功制や終身雇用)との関係で理解する。
16 回	【第10章後半 成人のキャリア形成支援システム】 企業内の労務や教育のシステムの存在について知り、就職後の自己のキャリアデザインに備える。同時に、これまでの理解度の最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	「キャリア形成」という概念について、ネット検索、図書館での書物に触れてみる。(60分)
2 回	「フリーター」について、入門書が論文を読んでみる。(120分)
3 回	「新時代の日本的経営」について予備知識を得ておく。(60分)
4 回	アメリカのハイスクールについて知識を持ておく。(60分)
5 回	自分が高校生の時の進路指導がキャリア教育の体験を纏めておく(発表を求める)。(60分)
6 回	友人・きょうだいがいれば、専門高校での進路指導について、取材をしておく(発表を求められる)。(60分)
7 回	自分の仕事・職業興味を振り返り、個人情報に触れない範囲で、発表できるようにしておく。(60分)

	60分)
8 回	特になし
9 回	自分が将来の職業を選択する上で、大切にしたいこと(価値)をメモし、授業に持参する。(60分)
10 回	ドイツ、アメリカ、インドネシア、中国、韓国のいずれかの国高校について予備知識を持っておく。(60分)
11 回	自分の「キャリア・モデル」(プラスの意味とマイナスの意味と)について、考えておく。(60分)
12 回	ネット検索でよいので、職業観のアンケート調査結果の具体例を発表(答えること)ができるようにしておく。(60分)
13 回	教科書の8章の生活時間調査用紙を参考に、自分の週間24時間を書いてみる。(60分)
14 回	ネット検索で、2011年の中教審・キャリア教育・職業教育に関する答申に目を通しておく。(ネットダウンロード可)(60分)
15 回	「年功制」、「終身雇用」、「定期配置転換」について、先輩か親と対話(電話)し、事前に実態の一端について知識を得ておく。(60分)
16 回	15回すべての講義ノート、教科書を総ざらいしておく。(120分)

講義目的	この講義は「キャリア形成」ということについての心理学、社会学、経済学、教育学などの知識を伝え、それを自分の体験や取材・事前学習との関連で理解することを目指す。合わせて、高校や大学での仕事や職業についての自己理解を体験し、探索的経験を促すことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	各回の講義概要に期した理解目標、事前学習で指示している学習・取材・予備調査、その記録の週間、スキルを身につけること。
キーワード	キャリア形成、キャリア開発、キャリア教育、キャリアデザイン、進路、職業選択、職業観、高校生、大学生、成人職業人
成績評価(合格基準60%)	合格最低基準60%、最終評価試験(40%)、中間テスト(40%)、質問・発問への回答(20%)
関連科目	「企業と人間」、「生徒・進路指導論」(教育学部)
教科書	キャリア教育論 - 若者のキャリアと職業観の形成 / 寺田盛紀 / 学文社、2016年第2刷 / ISBN 978-4-7620-2475-7、学内丸善社取り扱い)
参考書	その都度指示する
連絡先	キャリア支援センター河野
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26K010)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	工学部,総合情報学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
2回	「枕草子」の読み方1
3回	「枕草子」の読み方2
4回	「枕草子」の読み方3
5回	「枕草子」の読み方4
6回	「降霊会の夜」の読み方1
7回	「降霊会の夜」の読み方2
8回	感想文(評価試験に代わるもの)執筆
9回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
10回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
11回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
12回	今までに行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。
13回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
14回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
15回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する。
16回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
3回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
4回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
5回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
6回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
7回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
8回	感想文を書けるように考えをまとめておく。
9回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮すること。(標準学習時間90分)
11回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
12回	質問を考えておく。(標準学習時間90分)
13回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
14回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
15回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
16回	原稿を書き上げておくこと。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすところではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらう事から始め、最終的にきちんとした文章を書ける人を要請することを目的とする。 (教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げること、そして意味がきちんと通った文章を書けることを目標とする。
キーワード	いい文章を書くためには、まず文章力の読解力を上げる事。
成績評価(合格基準60)	発表点60点、文章実技40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」(プリント対応)、「降霊会の夜」浅田次郎(朝日文庫)

参考書	古語辞典、国語辞典（紙媒体）
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	健康の科学 (FB26L010)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康の科学15回の目的と内容について学習する。
2 回	人類の誕生と、健康観について学習する。
3 回	人の誕生から思春期について学習する。
4 回	加齢による身体の変化と精神的な変化について学習する。
5 回	生活習慣病について学習をする。
6 回	疾病構造の変化を時代にそって理解する。
7 回	感染症について理解をする。
8 回	現在社会の健康とストレスについて学習をする。
9 回	心身相関のしくみと心身症について学習する。
1 0 回	マズローの欲求階層説について理解する。
1 1 回	人間理解のその としてコンプレックスについて理解する。
1 2 回	人間理解のその として意識と無意識の世界を理解する。
1 3 回	人間理解のその として人間とタイプについて学習する。
1 4 回	自然と人間について、特に自然の偉大さについて理解をする。
1 5 回	生涯スポーツの意義について理解する。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	自分自身の健康観を考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	妊娠出産の科学と、乳児・幼児の成長の過程、性の確定と二次性徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	年齢による身体の変化と高齢者社会について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	ライフスタイルが健康のキーポイントになることの理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	疾病構造が変化した内容を調べておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	感染症と性感染症について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	社会状況が私たちにおよぼす影響について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	心身症について理解をしておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	マズローについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	コンプレックスについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	心理学者のフロイト、ユングについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	内向・外向、思考・感情・直感・感覚について調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	文明が人間にもたらしたもの。自然の偉大さについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	生涯スポーツと健康との関連について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	自己実現を可能にするためにも、自己を見つめる目を養い、健康についての理解を深め生涯におけるヘルスプロモーションについて理解し、実践していく態度を育成する。 私たちをとりまく社会や環境についても理解を深め、地球規模での考えが必要なことを理解し、自己だけでなく、社会や環境との関わりについて考える。(教養教育センター単位認定方針のDのもっとも強く関与する)
達成目標	人間の誕生、乳幼児期、青年期から老年期まで、各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた基礎的なヘルスプロモーションができること。 健康について各自が理解を深め、自己の健康を見つめることの必要性を知ること。 人間理解を深め、個人の可能性を高め、対人関係を見つめる目を養うこと。
キーワード	妊娠・出産、青年期、生活習慣病、疾病、心身相関、欲求、臨床心理学、適応機制、生涯スポーツ
成績評価(合格基準60)	課題(30%)、最終評価試験(70%)
関連科目	生涯スポーツ
教科書	プリント類などを適宜配布する
参考書	プリント類などを適宜配布する
連絡先	

注意・備考	第 1 回目の授業には必ず出席すること。 受講者が多数の場合、適宜受講制限を行う可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB26L020)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	講義実施場所・内容・目的・受講の心得について説明する。
2 回	施設・設備の利用方法と留意事項の説明を行った後、“体ほぐし運動”を行いながら、「体力」について説明をする。
3 回	バドミントンの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、練習と簡易ゲームをする。
4 回	シングルのルールの説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
5 回	ダブルスのルールの説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
6 回	選択種目 (ソフトボール、テニス) の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。
7 回	バレーボールの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、班に分かれて練習をする。
8 回	6人制バレーボールのルールと審判法について説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
9 回	6人制バレーボールのチームワークについて説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
10 回	選択種目 (フットサル、卓球) の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。
11 回	バスケットボールの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、班に分かれて練習をする。
12 回	バスケットボールのルール、オフェンス (攻撃側) とディフェンス (守備側) について説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明を行った後、班に分かれて戦術の話し合いをした後、練習とゲームをする。
14 回	選択種目 (ソフトボール、テニス、フットサル、卓球) の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。実技テストの説明を行った後、練習をする。
15 回	実技テストを行う。講義全体の振り返りとまとめをする。

回数	準備学習
1 回	授業内容・目的の確認を行うこと。「体力」について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	「体力」について説明ができるように復習を行うこと。バドミントンの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	バドミントンの歴史、基本技術について説明ができるように復習を行うこと。シングルのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	シングルのルールについて説明ができるように復習を行うこと。ダブルスのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	ダブルスについて説明ができるように復習を行うこと。選択種目 (ソフトボール、テニス) について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。バレーボールの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	バレーボールの歴史や技術について説明ができるように復習を行うこと。6人制バレーボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	6人制バレーボールのルールについて説明ができるように復習を行うこと。バレーボールに必要なチームワークについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
9 回	バレーボールのチームワークについて説明ができるように復習を行うこと。選択種目 (フットサル、卓球) について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	バスケットボールの歴史や技術について説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
12 回	バスケットボールのルールについて説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールに必要なチームワークについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明できるように復習を行うこと。選択種目 (ソフトボール、テニス、フットサル、卓球) について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)

1 4 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。実技テストの準備をしておくこと（標準学習時間 1 2 0 分）
1 5 回	生涯スポーツの意義と役割について復習・整理し、理解を深めること。（標準学習時間 6 0 分）

講義目的	授業で行う種目を通して、主体的にスポーツや運動を行ったり楽しんだりすることで、生涯にわたってスポーツや運動を実践していける習慣や能力を育てるこ。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	授業における各スポーツ種目の歴史・特性・審判法等について理解する。（D） 各スポーツ種目を楽しむためのチームワーク（協力と助け合い方法）、ルール・マナーの遵守、安全への配慮について理解する。（D） コミュニケーション能力（説明力、判断力、傾聴力、推察力等）を身につける。（D） スポーツと神経系について理解する（運動は脳を鍛える望ましい行動で、適切な運動は神経系に良い影響を及ぼす）。（D）
キーワード	生涯スポーツ、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ルール、マナー、チームワーク
成績評価（合格基準60	積極性（30％）、ルール・マナーの遵守（20％）、協調性（20％）、安全への配慮（20％）、技術（10％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	健康の科学、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
教科書	使用しない。
参考書	指定しない。
連絡先	B 3 号館 5 階 森 博史研究室 mori@dls.ous.ac.jp
注意・備考	第 1 回目の授業は、C 1 号館 2 階（トレーニングルーム：柔道場）で行う。 第 1 回目の授業には必ず出席すること。 6 0 名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 第 2 回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。 体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間 (FB26L030)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	工学部(～15), 総合情報学部(～15), 経営学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
1 1 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 2 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 3 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 4 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 5 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 6 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
成績評価(合格基準60)	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	
注意・備考	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26L040)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	工学部,総合情報学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
2回	「枕草子」の読み方1
3回	「枕草子」の読み方2
4回	「枕草子」の読み方3
5回	「枕草子」の読み方4
6回	「降霊会の夜」の読み方1
7回	「降霊会の夜」の読み方2
8回	感想文(評価試験に代わるもの)執筆
9回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
10回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
11回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
12回	今までに行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。
13回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
14回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
15回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する。
16回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
3回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
4回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
5回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
6回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
7回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
8回	感想文を書けるように考えをまとめておく。
9回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮すること。(標準学習時間90分)
11回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
12回	質問を考えておく。(標準学習時間90分)
13回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
14回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
15回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
16回	原稿を書き上げておくこと。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすところではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらう事から始め、最終的にきちんとした文章を書ける人を要請することを目的とする。 (教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げること、そして意味がきちんと通った文章を書けることを目標とする。
キーワード	いい文章を書くためには、まず文章力の読解力を上げる事。
成績評価(合格基準60)	発表点60点、文章実技40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」(プリント対応)、「降霊会の夜」浅田次郎(朝日文庫)

参考書	古語辞典、国語辞典（紙媒体）
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間 (FB26M010)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	工学部(～15), 総合情報学部(～15), 経営学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
2回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行う。
3回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
4回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
5回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
6回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
7回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
8回	前半の講義をまとめ、中間テストを実施する。
9回	後半の講義について概説する。
10回	企業をめぐる様々な問題を取り上げ、その背景について解説する。
11回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
12回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
13回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
14回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
15回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。
16回	後半の講義をまとめ、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
8回	予習：中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストを自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間30分)
10回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
11回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
12回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
13回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
14回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
15回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
16回	予習：最終評価試験の準備をして来ること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業組織の特徴および企業と個人の関係を理解し、自身のキャリアデザインを具体化するための視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価（合格基準60	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40％、最終評価試験60％とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	ボランティア論
教科書	世良利和 / 「企業と人間」 / 蜻文庫（2018年9月刊行予定）
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 5. 70名程度を目安に受講制限を行うことがある。 6. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 7. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26M060)
英文科目名	Technical Writing II
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
2回	文章表現の注意点 : リライトのポイントを解説する。
3回	小論文を書く : 文章の組み立てを説明する。
4回	小論文を書く : 準備した材料を使って文章化する。
5回	ストーリーを書く : ストーリーを構想する。
6回	ストーリーを書く : ストーリーを書く。
7回	文章表現の注意点 : 表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。
8回	前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。
9回	広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
10回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
11回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
12回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
13回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
14回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
15回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
16回	文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習: 受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習: 文章表現で大切な点をまとめること。復習: リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3回	予習: 文章の組み立て方を理解しておくこと。復習: 文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習: 指示されたテーマについて調べておくこと。復習: 組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5回	予習: ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習: ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6回	予習: ストーリーの構想を準備してくること。復習: 自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。復習: 表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8回	予習: 指示されたテーマについて準備しておくこと。復習: 中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
10回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
11回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
12回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
13回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
14回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
16回	予習: 後半の講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」（緑版） / 蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時のみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間 (FB26N010)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	工学部(～15), 総合情報学部(～15), 経営学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
12回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
13回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
14回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120分)
15回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120分)
16回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
成績評価(合格基準60)	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	
注意・備考	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26N020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。中間テストについて説明する。
8回	前半の講義をまとめる。中間テストを実施する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、中間テストの準備をすること。 復習: 中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。

	復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。(標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽著/「新・文章表現法 基礎編」(群青色版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	スポーツとフィールド科学（ボウリング）（FB26N080）
英文科目名	Sports (Bowling)
担当教員名	吉村直樹＊（よしむらなおき＊）
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	生涯スポーツとしてのボウリングの目的、内容、心得を理解させる。
2回	ボウリング学習の意義と性質、基本動作タイミングを理解する。
3回	スコア・スペアのとり方3・6・9理論、スケアングルを理解させる。
4回	規格について、アドレス、スイング、スタンス、練習投球を理解させる。
5回	リーグ戦、練習投球について理解させる。
6回	リーグ戦第1週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
7回	リーグ戦第2週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
8回	リーグ戦第3週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
9回	リーグ戦第4週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
10回	リーグ戦第5週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
11回	リーグ戦第6週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
12回	リーグ戦第7週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
13回	リーグ戦第8週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
14回	ゲームの成績により順位決定戦を実施し、より深くボウリングを理解する。
15回	チーム戦を実施し仲間意識の必要性を確認する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し講義の内容を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	ボウリングの歴史、マナー、シューズ、ボウルについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
3回	スコアのつけ方を事前に調べておくこと。（標準学習時間60分）
4回	アドレス、スタンス、スイングについて事前に調べイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	前回の講義の反省点を考えておくこと。（標準学習時間60分）
6回	リーグ戦のやり方について熟知しておくこと。（標準学習時間60分）
7回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
8回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
9回	前回の講義の反省をしておくこと。（標準学習時間60分）
10回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
11回	今迄のアベレージスコアを出して、よりスコアを高める為の努力を考えておくこと。（標準学習時間60分）
12回	よりスコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
13回	自分の得意、不得意が何であるかを考えておくこと。（標準学習時間60分）
14回	自己の技術を振り返りより高等な技術を目指すこと。（標準学習時間60分）
15回	チーム戦での協力と、表彰式の方法を確認すること。（標準学習時間60分）

講義目的	より深くボウリングを理解することを目的にする。 専門的にボウリングに取り組むことから生涯スポーツの糸口になるように各自努力する。 （教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	初歩から始めて専門的にボウリングを追求することで技術力、調整力、またチームを組みお互いに協力することにより協調性を学び、体を動かすことで、身体的、精神的な健康増進を計ること。
キーワード	専門の追求、技術、体力、健康、礼儀
成績評価（合格基準60）	スコアのアベレージ（60％） 態度、姿勢、技術等（20％） ボウリングの知識（20％）
関連科目	健康の科学 生涯スポーツ
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	
注意・備考	第1回目の授業には必ず出席すること。 【第1回目の授業はC1号館2階・トレーニングルーム（柔道場）に集合のこと。】

	実技場所：両備ボウル（岡山市北区下石井二丁目10番1号 ジョイポリス3階） 有料実費 60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため）
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB26P010)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	工学部,総合情報学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
2回	「枕草子」の読み方1
3回	「枕草子」の読み方2
4回	「枕草子」の読み方3
5回	「枕草子」の読み方4
6回	「降霊会の夜」の読み方1
7回	「降霊会の夜」の読み方2
8回	感想文(評価試験に代わるもの)執筆
9回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
10回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
11回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
12回	今までに行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。
13回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
14回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
15回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する。
16回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
3回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
4回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
5回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
6回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
7回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
8回	感想文を書けるように考えをまとめておく。
9回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮すること。(標準学習時間90分)
11回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
12回	質問を考えておく。(標準学習時間90分)
13回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
14回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
15回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
16回	原稿を書き上げておくこと。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすところではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらう事から始め、最終的にきちんとした文章を書ける人を要請することを目的とする。 (教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げること、そして意味がきちんと通った文章を書けることを目標とする。
キーワード	いい文章を書くためには、まず文章力の読解力を上げる事。
成績評価(合格基準60)	発表点60点、文章実技40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」(プリント対応)、「降霊会の夜」浅田次郎(朝日文庫)

参考書	古語辞典、国語辞典（紙媒体）
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	健康の科学 (FB26Q010)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康の科学15回の目的と内容について学習する。
2 回	人類の誕生と、健康観について学習する。
3 回	人の誕生から思春期について学習する。
4 回	加齢による身体の変化と精神的な変化について学習する。
5 回	生活習慣病について学習をする。
6 回	疾病構造の変化を時代にそって理解する。
7 回	感染症について理解をする。
8 回	現在社会の健康とストレスについて学習をする。
9 回	心身相関のしくみと心身症について学習する。
1 0 回	マズローの欲求階層説について理解する。
1 1 回	人間理解のその としてコンプレックスについて理解する。
1 2 回	人間理解のその として意識と無意識の世界を理解する。
1 3 回	人間理解その として人間とタイプについて学習する。
1 4 回	自然と人間について、特に自然の偉大さについて理解をする。
1 5 回	生涯スポーツの意義について理解する。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	自分自身の健康観を考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	妊娠出産の科学と、乳児・幼児の成長の過程、性の確定と二次性徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	年齢による身体の変化と高齢者社会について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	ライフスタイルが健康のキーポイントになることの理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	疾病構造が変化した内容を調べておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	感染症と性感染症について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	社会状況が私たちにおよぼす影響について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	心身症について理解をしておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	マズローについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	コンプレックスについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	心理学者のフロイト、ユングについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	内向・外向、思考・感情・直感・感覚について調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	文明が人間にもたらしたもの。自然の偉大さについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	生涯スポーツと健康との関連について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	自己実現を可能にするためにも、自己を見つめる目を養い、健康についての理解を深め生涯におけるヘルスプロモーションについて理解し、実践していく態度を育成する。 私たちをとりまく社会や環境についても理解を深め、地球規模での考えが必要なことを理解し、自己だけでなく、社会や環境との関わりについて考える。(教養教育センター単位認定方針のDのもっとも強く関与する)
達成目標	人間の誕生、乳幼児期、青年期から老年期まで、各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた基礎的なヘルスプロモーションができること。 健康について各自が理解を深め、自己の健康を見つめることの必要性を知ること。 人間理解を深め、個人の可能性を高め、対人関係を見つめる目を養うこと。
キーワード	妊娠・出産、青年期、生活習慣病、疾病、心身相関、欲求、臨床心理学、適応機制、生涯スポーツ
成績評価(合格基準60)	課題(30%)、最終評価試験(70%)
関連科目	生涯スポーツ
教科書	プリント類などを適宜配布する
参考書	プリント類などを適宜配布する
連絡先	

注意・備考	第 1 回目の授業には必ず出席すること。 受講者が多数の場合、適宜受講制限を行う可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB26Q020)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	講義実施場所・内容・目的・受講の心得について説明する。
2 回	施設・設備の利用方法と留意事項の説明を行った後、“体ほぐし運動”を行いながら、「体力」について説明をする。
3 回	バドミントンの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、練習と簡易ゲームをする。
4 回	シングルのルールの説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
5 回	ダブルスのルールの説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
6 回	選択種目（ソフトボール、テニス）の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。
7 回	バレーボールの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、班に分かれて練習をする。
8 回	6人制バレーボールのルールと審判法について説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
9 回	6人制バレーボールのチームワークについて説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
10 回	選択種目（フットサル、卓球）の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。
11 回	バスケットボールの歴史、用具の準備と片付けの仕方、基本技術の説明を行った後、班に分かれて練習をする。
12 回	バスケットボールのルール、オフェンス（攻撃側）とディフェンス（守備側）について説明を行った後、班に分かれて練習とゲームをする。
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明を行った後、班に分かれて戦術の話し合いをした後、練習とゲームをする。
14 回	選択種目（ソフトボール、テニス、フットサル、卓球）の説明を行った後、種目別に分かれて練習とゲームをする。実技テストの説明を行った後、練習をする。
15 回	実技テストを行う。講義全体の振り返りとまとめをする。

回数	準備学習
1 回	授業内容・目的の確認を行うこと。「体力」について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
2 回	「体力」について説明ができるように復習を行うこと。バドミントンの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
3 回	バドミントンの歴史、基本技術について説明ができるように復習を行うこと。シングルのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
4 回	シングルのルールについて説明ができるように復習を行うこと。ダブルスのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
5 回	ダブルスについて説明ができるように復習を行うこと。選択種目（ソフトボール、テニス）について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
6 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。バレーボールの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
7 回	バレーボールの歴史や技術について説明ができるように復習を行うこと。6人制バレーボールのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
8 回	6人制バレーボールのルールについて説明ができるように復習を行うこと。バレーボールに必要なチームワークについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
9 回	バレーボールのチームワークについて説明ができるように復習を行うこと。選択種目（フットサル、卓球）について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
10 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールの歴史、用具、基本技術について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
11 回	バスケットボールの歴史や技術について説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールのルールについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
12 回	バスケットボールのルールについて説明ができるように復習を行うこと。バスケットボールに必要なチームワークについて調べておくこと。（標準学習時間 60 分）
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明できるように復習を行うこと。選択種目（ソフトボール、テニス、フットサル、卓球）について調べておくこと。（標準学習時間 60 分）

1 4 回	選択した種目について説明ができるように復習を行うこと。実技テストの準備をしておくこと（標準学習時間 1 2 0 分）
1 5 回	生涯スポーツの意義と役割について復習・整理し、理解を深めること。（標準学習時間 6 0 分）

講義目的	授業で行う種目を通して、主体的にスポーツや運動を行ったり楽しんだりすることで、生涯にわたってスポーツや運動を実践していける習慣や能力を育てるこ。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	授業における各スポーツ種目の歴史・特性・審判法等について理解する。（D） 各スポーツ種目を楽しむためのチームワーク（協力と助け合い方法）、ルール・マナーの遵守、安全への配慮について理解する。（D） コミュニケーション能力（説明力、判断力、傾聴力、推察力等）を身につける。（D） スポーツと神経系について理解する（運動は脳を鍛える望ましい行動で、適切な運動は神経系に良い影響を及ぼす）。（D）
キーワード	生涯スポーツ、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ルール、マナー、チームワーク
成績評価（合格基準60	積極性（30％）、ルール・マナーの遵守（20％）、協調性（20％）、安全への配慮（20％）、技術（10％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	健康の科学、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
教科書	使用しない。
参考書	指定しない。
連絡先	B 3 号館 5 階 森 博史研究室 mori@dls.ous.ac.jp
注意・備考	第 1 回目の授業は、C 1 号館 2 階（トレーニングルーム：柔道場）で行う。 第 1 回目の授業には必ず出席すること。 6 0 名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 第 2 回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。 体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB26Q030)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	三木恒治(みきこうじ)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	工学部,総合情報学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。中間テストを実施する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、中間試験の準備をすること。 復習: 中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。

	(標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をしておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。 原則として、演習をすべて行うことが中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(パステルブルー版)/蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A2号館8階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	健康の科学 (FB26R010)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要説明、健康の考え方)をおこなう。
2 回	健康と自己実現との関わり、心の健康、人生の一回性の認識、生きがい感の創造について説明する。
3 回	脳と神経の働き、欲求不満と適応機制、心身相関とストレス、ストレスへの対処について説明する。
4 回	性格、人格、人間理解について説明する。
5 回	Y G 性格検査を行い、性格検査について説明する。
6 回	カウンセリングについて説明する。
7 回	至高経験、創造的人間、楽しむということ、マスロー、チクセントミハイについて説明する。
8 回	中間試験とこれまでのまとめ。ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。
9 回	スポーツの根源的な意味や自己実現との関わりについて説明する。
1 0 回	生涯スポーツ、競技スポーツ、障がい者スポーツについて説明する。
1 1 回	ドーピング (不正薬物使用) について説明する。
1 2 回	古代オリンピックと近代オリンピックについて説明する。
1 3 回	健康と体力の保持、増進について説明する。
1 4 回	性感染症について説明する。。
1 5 回	環境と健康について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	健康の意味について考えておくこと。受講者多数の場合、人数制限をするので必ず出席のこと。(標準学習時間60分)
2 回	生涯における健康と自己実現の意味について、マスローの考え方を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	マスローの自己実現について復習すること。欲求や不適応、ストレスについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	心身相関やストレス、ストレスへの対処について復習すること。性格、人格、人間理解の意味について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	性格や人格、人間理解について復習すること。Y G 性格検査について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	YG性格検査について、ふり返りをする。カウンセリングの目的について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	カウンセリングの目的と内容について復習すること。マスロー、チクセントミハイについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8 回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間180分)
9 回	現代スポーツの特徴について予習しておくこと。(標準学習時間(60分))
1 0 回	スポーツの根源的な意味や身体活動と自己実現について復習すること。生涯スポーツの意味と特徴について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	競技スポーツについて復習すること。ドーピング (禁止薬物使用) について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	ドーピング (禁止薬物使用) の問題点について復習すること。古代オリンピックと近代オリンピックについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	古代オリンピックと近代オリンピックの特徴について復習すること。体力の意味について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	ライフステージと体力について復習すること。性感染症の種類と臨床症状について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	主な性感染症について復習すること。環境と健康について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
1 6 回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	健康の要素として「心（精神）」「身体」「社会との関わり」があげられる。これらは密接な関係があり、それぞれの基礎知識や実践力を身につけて 生涯を通じての健康の保持・増進に関わる態度や能力を養う。（教養教育センターの単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	健康の考え方、現代社会と健康、生涯を通じる健康、スポーツと現代社会、運動と体力などについて理解し、生涯にわたるヘルスプロモーションの基礎が構築できること。（D）心の健康、カウンセリング、性格について理解し、説明できること。（D）人間理解について理解し、説明できること。（D）ライフステージにおける健康と身体活動の意味を理解し、説明できること。（D）性感染症について説明できること。（D）
キーワード	自己実現、至高経験、マズロー、健康、ストレス、スポーツ、オリンピック、体力、性感染症
成績評価（合格基準60	課題提出3回（30％）、中間試験および最終評価試験（70％）
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学
教科書	適宜配布する
参考書	適宜配布する
連絡先	B3号館 3階 西村（次）研究室
注意・備考	受講希望者が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB26R020)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンスにて講義概要、種目、安全管理など説明する。
2 回	バドミントンを実施する。
3 回	バドミントンを実施する。
4 回	バドミントンを実施する。
5 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
6 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
7 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
8 回	バレーボールを実施する。
9 回	バレーボールを実施する。
10 回	バレーボールを実施する。
11 回	バスケットボールを実施する。
12 回	バスケットボールを実施する。
13 回	バスケットボールを実施する。
14 回	バドミントン バレーボール バスケットボールの三種目の選択により実施する。
15 回	バドミントン バレーボール バスケットボールの三種目の選択により実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、どのような種目をするのか把握しておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	バドミントンのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	バドミントンの基本技術について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	試合ルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	硬式テニスやソフトボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	硬式テニスやソフトボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	野外スポーツの疾病、傷害予防について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	バレーボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
9 回	バレーボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	試合の運営について考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	バスケットボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
12 回	バスケットボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
13 回	試合の運営について考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
14 回	各自の種目を考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
15 回	各自の種目を考えておくこと。(標準学習時間 60 分)

講義目的	生涯の各ステージにおいて、環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を身につけるようにする。 スポーツ活動を観戦、支援(ボランティア)する楽しさを身につけた留用にする。(教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツのルールを理解し、ゲームの進行、運営が出来ること。スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、スポーツ傷害
成績評価(合格基準60)	各種スポーツの進行、運営(30%) 知識と技術(60%) 安全への配慮(10%)
関連科目	生涯スポーツ、健康の科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	
注意・備考	第1回目の授業はC1号館2階(トレーニングルーム:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。 60名超過した場合、抽選により受講者を決定する。(安全面等、適正な教育環境を確保するため) 第2回目以降の授業は、加計記念体育館(笹ヶ瀬キャンパス)で行います。

	四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB26R030)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	工学部,総合情報学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
2回	「枕草子」の読み方1
3回	「枕草子」の読み方2
4回	「枕草子」の読み方3
5回	「枕草子」の読み方4
6回	「降霊会の夜」の読み方1
7回	「降霊会の夜」の読み方2
8回	感想文(評価試験に代わるもの)執筆
9回	ガイダンス(講義の進め方、評価法などの説明)
10回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
11回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
12回	今までに行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。
13回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
14回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
15回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する。
16回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
3回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
4回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
5回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
6回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
7回	自分なりに講義範囲を読解しておく。(標準学習時間90分)
8回	感想文を書けるように考えをまとめておく。
9回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮すること。(標準学習時間90分)
11回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
12回	質問を考えておく。(標準学習時間90分)
13回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
14回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
15回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
16回	原稿を書き上げておくこと。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすところではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらう事から始め、最終的にきちんとした文章を書ける人を要請することを目的とする。 (教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げること、そして意味がきちんと通った文章を書けることを目標とする。
キーワード	いい文章を書くためには、まず文章力の読解力を上げる事。
成績評価(合格基準60)	発表点60点、文章実技40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」(プリント対応)、「降霊会の夜」浅田次郎(朝日文庫)

参考書	古語辞典、国語辞典（紙媒体）
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB26R040)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	堀田和義(ほったかずよし)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	工学部,総合情報学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法について)、および文章を書くということ(手書き、ワープロソフトの使用の両方を視野に入れて、文章を書くうえで最も重要な点)を説明する。
2回	文章を書く際の注意点(1)—字数制限、段落分けとインデント、英数字や句読点・括弧の使い方などを説明する。
3回	文章を書く際の注意点(2)—感想文とレポート・論文との違い、常体と敬体、話し言葉と文章語などを説明する。
4回	文章を書く際の注意点(3)—文の適切な長さ、文のねじれと呼応表現、避けるべき表現などを説明する。
5回	文章を書く際の注意点(4)—漢字使用の目安、誤字脱字、てにをは・言葉の誤用などを説明する。
6回	レポートや論文の構成(1)—序論、本論、結論、参考文献表という基本的な構成法などを説明する。
7回	レポートや論文の構成(2)—引用と剽窃の違い、正しい引用の仕方などを説明する。
8回	これまでに学習した内容の総括を行い、課題についての注意点を説明する。
9回	文章を書く際の細かい注意点について復習する。
10回	正しい根拠にたどり着く方法(資料の検索方法、見分け方、インターネットと出版物など)を説明する。
11回	リーディングの技術(1)—文章の構造分析と要約の方法を説明する。
12回	リーディングの技術(2)—文章の構造分析と要約の方法を説明する。
13回	リーディングの技術(3)—文章の構造分析と要約の方法を説明する。
14回	ライティングの技術(1)—5段落から成る文章の書き方を説明する。
15回	ライティングの技術(2)—5段落から成る文章の書き方を説明する。
16回	これまでに学習した内容の総括を行い、課題についての注意点を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、「文章を書くうえで最も重要な点は何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)

	れておくこと。(標準学習時間120分)
9回	シラバスをよく読み、「文章を書くうえで注意すべき点は何か」という問いに対する答え(複数)をまとめておくこと。(標準学習時間30分)
10回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
11回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
12回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
13回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
14回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
15回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義の目的は、論文やレポートの作成といった大学での学びに限らず、社会に出てからも日誌や報告書の作成などといった様々な場面で必要となる「読みやすい文章」「わかりやすい文章」を書くスキルを習得することである。最初に大学生が文章を書く際に間違いやすい細かい点を説明し、その後で、具体的な文章の構成方法を学んでいく。(教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	文章を書く際に気を付けるべき点に注意し、読みやすく、わかりやすい文章を書くことができる。 適切な順序で文章を構成し、信頼できる根拠に基づいて、説得力のある文章を書くことができる。
キーワード	文章表現、レポート、論文
成績評価(合格基準60)	
関連科目	文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	連絡先を表示します。シラバスは、一般にも公開されますので、個人情報の記載にご注意ください。
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間 (FB26R050)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	工学部(～15), 総合情報学部(～15), 経営学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
1 1 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 2 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 3 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 4 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 5 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 6 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
成績評価(合格基準60)	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	
注意・備考	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座（FB26R060）
英文科目名	Career Design
担当教員名	飯田哲司*（いいだてつし*）、桑田朋美*（くわたともみ*）
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	工学部（～15）、総合情報学部（～15）、経営学部（～15）
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 （ 講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める） （ 演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク） （ 具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など） （全教員）
2回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 （桑田 朋美*）
3回	【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 （飯田 哲司*）
4回	【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 （桑田 朋美*）
5回	【セルフ・コントロール】 ビジスマインドの軸である「チームワーク力」の発揮と強化を視野に入れたビジネス心理学と自己コントロール法について、体験ワークを通じて理解・習得する。 （桑田 朋美*）
6回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 （飯田 哲司*）
7回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 （飯田 哲司*）
8回	【実践的表現力強化演習】 集団の中での自分の活かし方を知る基礎であるブレインストーミングを通じて、自己理解と表現能力のアップを図る演習を実施する。 【第1回からの振り返り・中間テスト】 ここまでの講義を振り返り、習得度合いの確認とチェックを行う。 （桑田 朋美*）
9回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を深めるとともに表現力アップを理解・実践する。 （桑田 朋美*）
10回	【ビジスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学（行動経済学）」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 （飯田 哲司*）
11回	【実践的ビジネスマナー養成】 社会の実践現場で活かすマナー＆ビジネスマナーの考え方と意味

	を知り、その基礎力・応用力を実技演習により習得する。 (桑田 朋美*)
1 2 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、コンセンサス力の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
1 3 回	【発想力強化トレーニング】 能力要件として注目度の高い「発想力」「ラテラルシンキング」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを実施する。 (飯田 哲司*)
1 4 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
1 5 回	【セルフコントロール・意思疎通】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「集団の中での自分」の在り方・見せ方について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。(標準学習時間 60分)
8 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
9 回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。
1 0 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 1 回	実社会で即発揮できる「実践的・即効性マナー」を習得します。そのための心構えとスタイルで臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 2 回	「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 3 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 4 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 5 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 6 回	「社会人基礎力」の意味とその習得法・応用事例について、自分なりに再確認・整理をしたうえで臨むこと。(標準学習時間 60分)

講義目的	・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践
------	--

	的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価（合格基準60	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間課題テストと最終評価試験（最終課題テスト） 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	教職のためのプレゼンテーション (FB26R080)
英文科目名	Presentation Skills for the Teaching Profession
担当教員名	皿田琢司 (さらたたくじ)
対象学年	3 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部(16～),工学部(16～),総合情報学部(16～),生物地球学部(16～),経営学部(16～)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。教員の職責・役割からみた資質とプレゼンテーション能力について理解を図る。
2 回	教員採用試験における面接と討論を主題に、出題傾向と評価の基本的観点について理解を図る。
3 回	集団面接の基本。簡単な自己紹介を例に、話し方と聴き方(視線、表情等を含む)に係る評価指標について理解を図る。
4 回	集団面接の練習(1)―自己アピールと志望動機を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
5 回	集団面接の練習(2)―時事問題を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
6 回	集団面接の練習(3)―教育理念・教育政策を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
7 回	集団面接の練習(4)―学習指導の方針・原則を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
8 回	集団面接の練習(5)―具体的場面の対応を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
9 回	討論の基本―教員の資質・能力と期待される役割を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
10 回	討論の練習(1)―最近の青少年の行動傾向を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
11 回	討論の練習(2)―「生きる力」「確かな学力」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
12 回	討論の練習(3)―「地域と学校」「人権教育」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
13 回	討論の練習(4)―キャリア教育と情報教育を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
14 回	討論の練習(5)―生徒指導状の問題事案を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
15 回	集団面接と討論の総括―教員としての継続的な研究と修養(その見直しを含む)の意義について理解の深化を図る。
16 回	最終評価試験を実施する。筆記試験と原則とするが、口頭試問を加える場合もある。

回数	準備学習
1 回	受験予定の都道府県市の教員採用試験のうち、過去3年間の面接及び討論の出題内容及び様態を整理しておくこと。(標準学習時間:80分)
2 回	受験予定の都道府県市が公表している教育施策の基本方針と同自治体の求める教師像を整理しておくこと。(標準学習時間:80分)
3 回	前時までに整理した主題から3～4題を選び、それぞれ1分程度で話せるよう要点を整理しておくこと。選択した主題をもとに、生徒にとって理解しやすい話し方(視線や表情を含む)を検討し練習しておくこと。(標準学習時間:80分)
4 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を複数の角度から検討し練習しておくこと。(標準学習時間:80分)
5 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を多面的に検討し練習しておくこと。(標準学習時間:80分)
6 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。(標準学習時間:80分)
7 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。(標準学習時間:100分)
8 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。(標準学習時間:120分)
9 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。(標準学習時間:80分)
10 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。

	(標準学習時間：80分)
1 1 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。(標準学習時間：80分)
1 2 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。(標準学習時間：80分)
1 3 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。(標準学習時間：100分)
1 4 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の志向を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。(標準学習時間：120分)
1 5 回	これまでの学習全体を振り返って学習成果の精力的な活用に努めるとともに、課題の明確化と継続的克服に努めること。(標準学習時間：180分)
1 6 回	これまでに履修した教職関連科目と本科目を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること(標準学習時間：80分。継続的に努めることが望ましい)

講義目的	将来教員をめざす者が次の各事項を理解し、口頭で明瞭に表現する技能と方法を習得することを目的とする。 1. 志望動機、理想的教師像、教職の意義、担当教科の指導目標・意義・魅力 2. 教員に求められる資質と実践的指導力、学校に期待される役割 3. 学校現場で想定される具体的な場面における対応の基本的な方針 4. 上記に関する自らの課題の明確化と努力の見通し (教養教育センター単位認定の方針Eのうち、中学校または高等学校教員に必要な知識を活用したプレゼンテーション能力に特に関与)
達成目標	授業目的に挙げた各事項について、次のことができるようになること。 ○身に付けた学識・知見を論理的に組み立て、説得的に説明できる。 ○聴取者の理解や思考を深めることを念頭に、表情や語調等にも留意しながら話すことができる。 ○聴取者の理解に即して、表現、用語、構成等を柔軟に調整して話すことができる。
キーワード	教員採用試験、教員の資質・能力、実践的指導力、人物重視、教師力、教育観、教師像
成績評価(合格基準60%)	授業各時の面接練習・提出物(50～70%程度)、最終評価試験(40～60%程度)。 受講希望者が多数に上り、口頭試問を加味した抽選(注意・備考欄参照)を行う場合には、その試問の結果を約10%加算する。 上記の比率は、受講者の学習状況により見直すことがある。
関連科目	○教職関連科目のうち1～2年次開講のもの(基礎理学科生は教育学原論、教育心理学に代えてそれぞれ教育基礎論、学習・発達論)及びプレゼンテーション基礎編・応用編を良好な成績で修得していることが望ましい。 ○3年次秋学期履修の場合、教育実習事前・事後指導を同時に履修中であることが望ましい。 ○4年次春学期履修の場合、教育実習事前・事後指導の成績評価がRであることが望ましい。 ○本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。
教科書	必要に応じて配付資料または提示資料を用いる。刊行物は必要に応じて各自が用意できるよう指示する。
参考書	○受験希望(勤務予定)校種の学習指導要領(最新版)。文科省ウェブサイトからダウンロードしてプリントアウトしたものでもよい。 ○担当予定教科の学習指導要領解説。 ○受験希望都道府県市の教員採用試験(主として面接・討論)で過去出題された内容(市販の参考書または各自治体の情報公開制度を利用)。
連絡先	B 2 号館(旧13号館)3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	○おおむね30名以内の少人数指導とする。受講希望者が多数に上る場合には、第1回授業出席者のうち、面接または討論が特に重視される都道府県市教員採用試験を受験する者を優先する。それでも超過する場合には、口頭試問を加味した抽選を行う。 ○授業で課された提出物には、個別に添削することを原則とする。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。 ○提示物の撮影は、他の受講者の学習の妨げにならない限り認めるが、他者への再配付は、電磁的方法も含めて認めない。録音または録画を希望する場合には事前に相談すること。 ○第3講以降は、いわゆるアクティブラーニングを基本とする。指導計画(成績評価の配分比率を含む)は、受講状況により見直す場合がある。 ○連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 ○C 1 号館(旧25号館)7階掲示板を授業日には必ず確認すること。

	○専攻分野に関する学業と読書を励行し、それを学ぶ意義や魅力を分かりやすく伝えられるよう日ごろから伝え方の見直しを習慣づけること。 ○信頼される教員をめざそうとする強い目的意識をもって謙虚にかつ不断に学び続けること。
試験実施	実施する

科目名	生涯スポーツ (FB26S010)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンスにて講義概要、種目、安全管理など説明する。
2 回	バドミントンを実施する。
3 回	バドミントンを実施する。
4 回	バドミントンを実施する。
5 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
6 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
7 回	硬式テニス、ソフトボールを実施する。
8 回	バレーボールを実施する。
9 回	バレーボールを実施する。
10 回	バレーボールを実施する。
11 回	バスケットボールを実施する。
12 回	バスケットボールを実施する。
13 回	バスケットボールを実施する。
14 回	バドミントン バレーボール バスケットボールの三種目の選択により実施する。
15 回	バドミントン バレーボール バスケットボールの三種目の選択により実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、どのような種目をするのか把握しておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	バドミントンのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	バドミントンの基本技術について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	試合ルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	硬式テニスやソフトボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	硬式テニスやソフトボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	野外スポーツの疾病、傷害予防について調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	バレーボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
9 回	バレーボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	試合の運営について考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	バスケットボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
12 回	バスケットボールのルールについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
13 回	試合の運営について考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
14 回	各自の種目を考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
15 回	各自の種目を考えておくこと。(標準学習時間 60 分)

講義目的	生涯の各ステージにおいて、環境や能力に応じたスポーツ活動を安全に継続的に実践する能力や態度を身につけるようにする。 スポーツ活動を観戦、支援(ボランティア)する楽しさを身につけた留用にする。(教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツのルールを理解し、ゲームの進行、運営が出来ること。スポーツ傷害の予防ができること。
キーワード	バドミントン、テニス、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、スポーツ傷害
成績評価(合格基準60)	各種スポーツの進行、運営(30%) 知識と技術(60%) 安全への配慮(10%)
関連科目	生涯スポーツ、健康の科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	
注意・備考	第1回目の授業はC1号館2階(トレーニングルーム:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。 60名超過した場合、抽選により受講者を決定する。(安全面等、適正な教育環境を確保するため) 第2回目以降の授業は、加計記念体育館(笹ヶ瀬キャンパス)で行います。

	四季を味わいながら山越えを楽しみましょう！
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法 (FB26S020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。中間テストについて説明する。
8回	前半の講義をまとめる。中間テストを実施する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、中間テストの準備をすること。 復習: 中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。

	復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。(標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽著/「新・文章表現法 基礎編」(群青色版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座（FB26S030）
英文科目名	Career Design
担当教員名	飯田哲司*（いいだてつし*）、桑田朋美*（くわたともみ*）
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	工学部（～15）、総合情報学部（～15）、経営学部（～15）
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 （ 講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める） （ 演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク） （ 具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など） （全教員）
2回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 （桑田 朋美*）
3回	【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 （飯田 哲司*）
4回	【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 （桑田 朋美*）
5回	【セルフ・コントロール】 ビジスマインドの軸である「チームワーク力」の発揮と強化を視野に入れたビジネス心理学と自己コントロール法について、体験ワークを通じて理解・習得する。 （桑田 朋美*）
6回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 （飯田 哲司*）
7回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 （飯田 哲司*）
8回	【実践的表現力強化演習】 集団の中での自分の活かし方を知る基礎であるブレインストーミングを通じて、自己理解と表現能力のアップを図る演習を実施する。 【第1回からの振り返り・中間テスト】 ここまでの講義を振り返り、習得度合いの確認とチェックを行う。 （桑田 朋美*）
9回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を深めるとともに表現力アップを理解・実践する。 （桑田 朋美*）
10回	【ビジスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学（行動経済学）」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 （飯田 哲司*）
11回	【実践的ビジネスマナー養成】 社会の実践現場で活かすマナー＆ビジネスマナーの考え方と意味

	を知り、その基礎力・応用力を実技演習により習得する。 (桑田 朋美*)
1 2 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、コンセンサス力の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
1 3 回	【発想力強化トレーニング】 能力要件として注目度の高い「発想力」「ラテラルシンキング」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを実施する。 (飯田 哲司*)
1 4 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
1 5 回	【セルフコントロール・意思疎通】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「集団の中での自分」の在り方・見せ方について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。(標準学習時間 60分)
8 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
9 回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。
1 0 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 1 回	実社会で即発揮できる「実践的・即効性マナー」を習得します。そのための心構えとスタイルで臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 2 回	「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 3 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 4 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 5 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 6 回	「社会人基礎力」の意味とその習得法・応用事例について、自分なりに再確認・整理をしたうえで臨むこと。(標準学習時間 60分)

講義目的	・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践
------	--

	的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価（合格基準60	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間課題テストと最終評価試験（最終課題テスト） 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間 (FB26S050)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	工学部(～15), 総合情報学部(～15), 経営学部(～15)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
1 1 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 2 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 3 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 4 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 5 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
1 6 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
成績評価(合格基準60)	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	
注意・備考	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	健康の科学 (FB26U010)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方、内容と目的、受講の心得について説明する。人体の構造について説明する。
2 回	スキャモンの発達・発育曲線と体力について説明する。
3 回	生活と健康、思春期以降変化する健康観と健康の定義について説明する。
4 回	わが国の平均寿命と疾病構造の変化について説明する。
5 回	健康寿命、成人病と生活習慣病について説明する。
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明する。
7 回	肥満症とメタボリックシンドロームについて説明する。
8 回	主な生活習慣病について説明する。
9 回	サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について説明する。
10 回	マズローの欲求階層説について説明する。
11 回	適応機制の種類と問題点について説明する。
12 回	ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について説明する。
13 回	ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について説明する。
14 回	心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について説明する。
15 回	心身症について説明する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業内容と目的の確認をすること。人体の構造について説明できるように復習を行うこと。スキャモンの発達・発育曲線と体力について調べておくこと。（標準学習時間120分）
2 回	スキャモンの発達・発育曲線と体力について説明できるように復習すること。生活と健康、健康観と健康の定義について調べておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	生活と健康、健康観と健康の定義について説明できるように復習すること。わが国の平均寿命と疾病構造の変化について調べておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	わが国の平均寿命と疾病構造の変化について説明できるように復習すること。健康寿命、成人病と生活習慣病について調べておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	健康寿命、成人病と生活習慣病について説明できるように復習すること。病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について調べておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明できるように復習すること。肥満症とメタボリックシンドロームについて調べておくこと。（標準学習期間120分）
7 回	肥満症とメタボリックシンドロームについて説明できるように復習すること。主な生活習慣病について調べておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	主な生活習慣病について説明できるように復習すること。サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について調べておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について説明できるように復習すること。マズローの欲求階層説について調べておくこと。（標準学習時間120分）
10 回	マズローの欲求階層説について説明できるように復習すること。適応機制の種類と問題点について調べておくこと。（標準学習時間120分）
11 回	適応機制の種類と問題点について説明できるように復習すること。ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
12 回	ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について説明できるように復習すること。ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
13 回	ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について説明できるように復習すること。心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
14 回	心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について説明できるように復習すること。心身症について調べておくこと。（標準学習時間120分）
15 回	心身症について説明できるよう復習すること。講義全体の復習・整理をする。（標準学習時間180分）

16回	最終評価試験を通して、1回～15回までの内容を復習・整理し、理解を深めること。（標準学習時間180分）
講義目的	近年の健康問題は、生活習慣病や心理社会的ストレスが強くなかった病気が主要となり、ライフスタイルが健康水準に大きく影響していることが明らかになっている。現在では、自分自身で健康を獲得していかなければならないという考えにたち、将来にわたってよりよく生きていくために、一人ひとりが健康について主体的に学び、考え、判断し、責任ある決定をすることができるようにする。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	きわめて多様な価値観が共存する今日の世界の中では、心身両面の健康課題も多い。健康を保持増進するためには、正しい知識と適切な行動が重要であることを理解する。（D） 生活習慣病とその予防について理解する。（D） マズローの欲求階層説と、適応機制について理解する。（D） ストレスとストレスマネジメントについて理解する。（D） 心身相関と心身症について理解する。（D）
キーワード	生活習慣病、メタボリックシンドローム、メンタルヘルス（精神衛生）、心身症
成績評価（合格基準60）	最終評価試験70%、提出課題30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
教科書	使用しない。講義で資料を配布する。
参考書	指定しない。
連絡先	B3号館5階 森 博史研究室 mori@dls.ous.ac.jp
注意・備考	講義資料は、講義の中で適宜配布する。 講義中の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 講義中に課した提出課題についてのフィードバックは授業で資料を用いて行う。 課題の提出期限を守ること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26U020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	生田夏樹* (いくたなつき*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章 (「使用後を考えなかった兵器」) を要約する(1) 第1課題: アウトラインを作成する。
2回	文章 を要約する(2) 第2課題: 要約本文を作成する。
3回	文章 (「はたして科学者はパズルを解いているのか」) を要約する(1) 第3課題: アウトラインを作成する。
4回	文章 を要約する(2) 第4課題: 要約本文を作成する。
5回	与えられたテーマA(「協力のあり方について」) の文章を作成する(1) 第5課題: アウトライン1回目を作成する。
6回	与えられたテーマAの文章を作成する(2) 第6課題: アウトライン2回目を作成する。
7回	与えられたテーマAの文章を作成する(3) 第7課題: 本文のうち序論と本論1を作成する。
8回	与えられたテーマAの文章を作成する(4) 第8課題: 本文のうち本論2と結論を作成する。中間試験を実施する。
9回	与えられたテーマB(「私の職業観」) の文章を作成する(1) 第9課題: アウトラインを作成する。
10回	与えられたテーマB(「私の職業観」) の文章を作成する(1) 第10課題: 本文を作成する。
11回	与えられたテーマC(「創造性について」) の文章を作成する(1) 第11課題: アウトライン1回目を作成する。
12回	与えられたテーマCの文章を作成する(1) 第12課題: アウトライン2回目を作成する。
13回	与えられたテーマCの文章を作成する(2) 第13課題: 本文を作成する。
14回	与えられたテーマD(「情報について」) の文章を作成する(1) 第14課題: アウトライン1回目を作成する。
15回	与えられたテーマDの文章を作成する(2) 第15課題: アウトライン2回目を作成する。
16回	与えられたテーマDの文章を作成する(3) 第16課題: 本文を作成する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
7回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (序論、本論1に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
9回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えてみる。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って

	生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
10 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
11 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみる。こと。(標準学習時間 120 分)
12 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
13 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
14 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみる。こと。(標準学習時間 120 分)
15 回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
16 回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)

講義目的	小論文、レポート等の作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を受講者が身につけることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章を要約するために必要な発想ならびに技法を習得すること。 文章を作成するための「アウトライン」の重要性を理解すること。 与えられた課題について、アウトラインに基づいて800字の作文を独力で完成させることができること。
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
成績評価(合格基準60)	課題提出14回分(56%)，最終評価試験(44%)， 60%以上を合格とする。
関連科目	「文章表現法II」「プレゼンテーションIおよびII」
教科書	なし。
参考書	プリント(資料)を配布する。
連絡先	
注意・備考	課題点も成績評価に含まれるので、毎回の課題を必ず提出すること。 受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	健康の科学 (FB26W010)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方、内容と目的、受講の心得について説明する。人体の構造について説明する。
2 回	スクヤモンの発達・発育曲線と体力について説明する。
3 回	生活と健康、思春期以降変化する健康観と健康の定義について説明する。
4 回	わが国の平均寿命と疾病構造の変化について説明する。
5 回	健康寿命、成人病と生活習慣病について説明する。
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明する。
7 回	肥満症とメタボリックシンドロームについて説明する。
8 回	主な生活習慣病について説明する。
9 回	サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について説明する。
10 回	マズローの欲求階層説について説明する。
11 回	適応機制の種類と問題点について説明する。
12 回	ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について説明する。
13 回	ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について説明する。
14 回	心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について説明する。
15 回	心身症について説明する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業内容と目的の確認をすること。人体の構造について説明できるように復習を行うこと。スクヤモンの発達・発育曲線と体力について調べておくこと。（標準学習時間120分）
2 回	スクヤモンの発達・発育曲線と体力について説明できるように復習すること。生活と健康、健康観と健康の定義について調べておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	生活と健康、健康観と健康の定義について説明できるように復習すること。わが国の平均寿命と疾病構造の変化について調べておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	わが国の平均寿命と疾病構造の変化について説明できるように復習すること。健康寿命、成人病と生活習慣病について調べておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	健康寿命、成人病と生活習慣病について説明できるように復習すること。病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について調べておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明できるように復習すること。肥満症とメタボリックシンドロームについて調べておくこと。（標準学習期間120分）
7 回	肥満症とメタボリックシンドロームについて説明できるように復習すること。主な生活習慣病について調べておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	主な生活習慣病について説明できるように復習すること。サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について調べておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	サイレントキラー（沈黙の殺人者）と呼ばれる病気について説明できるように復習すること。マズローの欲求階層説について調べておくこと。（標準学習時間120分）
10 回	マズローの欲求階層説について説明できるように復習すること。適応機制の種類と問題点について調べておくこと。（標準学習時間120分）
11 回	適応機制の種類と問題点について説明できるように復習すること。ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
12 回	ストレスとメンタルヘルス（精神衛生）について説明できるように復習すること。ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
13 回	ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について説明できるように復習すること。心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について調べておくこと。（標準学習時間120分）
14 回	心身相関（自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係）について説明できるように復習すること。心身症について調べておくこと。（標準学習時間120分）
15 回	心身症について説明できるよう復習すること。講義全体の復習・整理をする。（標準学習時間180分）

16回	最終評価試験を通して、1回～15回までの内容を復習・整理し、理解を深めること。（標準学習時間180分）
講義目的	近年の健康問題は、生活習慣病や心理社会的ストレスが強くなかった病気が主要となり、ライフスタイルが健康水準に大きく影響していることが明らかになっている。現在では、自分自身で健康を獲得していかなければならないという考えにたち、将来にわたってよりよく生きていくために、一人ひとりが健康について主体的に学び、考え、判断し、責任ある決定をすることができるようにする。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	きわめて多様な価値観が共存する今日の世界の中では、心身両面の健康課題も多い。健康を保持増進するためには、正しい知識と適切な行動が重要であることを理解する。（D） 生活習慣病とその予防について理解する。（D） マズローの欲求階層説と、適応機制について理解する。（D） ストレスとストレスマネジメントについて理解する。（D） 心身相関と心身症について理解する。（D）
キーワード	生活習慣病、メタボリックシンドローム、メンタルヘルス（精神衛生）、心身症
成績評価（合格基準60）	最終評価試験70%、提出課題30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
教科書	使用しない。講義で資料を配布する。
参考書	指定しない。
連絡先	B3号館5階 森 博史研究室 mori@dls.ous.ac.jp
注意・備考	講義資料は、講義の中で適宜配布する。 講義中の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 講義中に課した提出課題についてのフィードバックは授業で資料を用いて行う。 課題の提出期限を守ること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26W020)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。中間テストについて説明する。
8回	前半の講義をまとめる。中間テストを実施する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習：前半の講義内容を確認し、中間テストの準備をすること。 復習：中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習：文章の構成について確認しておくこと。 復習：文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。

	復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。(標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽著/「新・文章表現法 基礎編」(群青色版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法 (FB26X010)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	工学部, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。中間テストについて説明する。
8回	前半の講義をまとめる。中間テストを実施する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、中間テストの準備をすること。 復習: 中間テストについて自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。

	復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
1 2 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
1 3 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
1 4 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
1 5 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。(標準学習時間60分)
1 6 回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価(合格基準60)	演習・提出課題(40%)、中間テスト(30%)、最終評価試験(30%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽著/「新・文章表現法 基礎編」(群青色版)/蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	スポーツとフィールド科学（スキー）（FB26Z070）
英文科目名	Sports (Ski)
担当教員名	西村次郎（にしむらじろう）、森博史（もりひろし）、吉村直樹＊（よしむらなおき＊）、山口立雄＊（やまぐちたつお＊）、黒田隆之＊（くろだたかゆき＊）、湯川治敏＊（ゆかわはるとし＊）、杉本博＊（すぎもとひろし＊）
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部、工学部、総合情報学部、生物地球学部、教育学部、経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義概要、目的）をおこなう。（全教員） （全教員）
2 回	スキー、スノーボードの特性、安全とマナーについて説明する。受講者のチームビルディングをおこなう。グループワーク等をおこなう。（全教員） （全教員）
3 回	雪に慣れる、スキー板、ボードの脱着、転倒起立をおこなう。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション、ワークシート）をおこなう。（全教員） （全教員）
4 回	平地歩行、方向転換、滑降、登降をおこなう。緩斜面でフロントサイドターン及びバックサイドターンをおこなう。グループワークをおこなう。（全教員） （全教員）
5 回	直滑降、ブルーク、ブルークボーゲンをおこなう。緩斜面で連続ターンをおこなう。グループワーク、ディスカッション、ワークシートをおこなう。（全教員） （全教員）
6 回	斜滑降、横滑り、山まわり、ブルークターンをおこなう。緩斜面で連続ターンをおこない安全に停止する。グループワーク等をおこなう。（全教員） （全教員）
7 回	シュテムターンをおこなう。緩斜面での連続ターンと安全な停止をおこなう。グループワーク、ディスカッション、ワークシートをおこなう。（全教員） （全教員）
8 回	パラレルをおこなう。中斜面で回転半径を調整したドリフトでの連続ターンをおこなう。グループワーク、ディスカッション等をおこなう。（全教員） （全教員）
9 回	ウエーデルンをおこなう。カービングターンをおこなう。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション、ワークシート）をおこなう。（全教員） （全教員）
10 回	制限滑降、新雪滑降をおこなう。中斜面不整地を連続ターンでおこなう。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）をおこなう。（全教員） （全教員）
11 回	安全、危機管理について説明する。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション、ワークシート）をおこなう。（全教員） （全教員）
12 回	総合滑降をおこなう。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション、ワークシート、ふり返り）をおこなう。（全教員） （全教員）
13 回	総合滑降をおこなう。スノーシューやカントリースキーの文化、技術を修得する。アクティブラーニング（グループワーク等）をおこなう。（全教員）

	(全教員)
14回	総合滑降をおこなう。スノーシューやカントリースキーの文化、技術を修得する。アクティブラーニング(グループワークによるふり返し)をおこなう。(全教員)
	(全教員)
15回	総合滑降をおこなう。直滑降からジャンプして安全に着地をおこなう。アクティブラーニング(グループワーク、ディスカッション等)をおこなう。(全教員)
	(全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、講義概要についてを予習しておくこと。
2回	スキー、スノーボードについて文化や基本的技術、安全について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	スキー板、ボード、靴のはき方について調べておくこと。
4回	基本的な技術について調べておくこと。
5回	基本的な技術について調べておくこと。
6回	基本的な技術について調べておくこと。
7回	基本的な技術について調べておくこと。
8回	基本的な技術について調べておくこと。
9回	基礎から応用の技術について調べておくこと。
10回	さまざまな条件下の技術について調べておくこと。
11回	野外スポーツ(山)の安全に関する知識をまとめておくこと。
12回	スキーの総合的な知識を確認しておくこと。
13回	自分の技術を把握しておくこと。
14回	自分の技術の把握と課題
15回	自分の技術の把握と課題

講義目的	冬のスポーツの代表ともいえるスキーは歴史も古く、これまで多くの人々に親しまれてきた。生涯スポーツとしてスキー技術の向上を目指すとともに、マナー、安全に対する知識も身につける。スノーボードやスノーシューの技術を習得し、生涯スポーツにつなげる。(教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する)
達成目標	一人ひとりの技術レベルに応じて、雪面の状況に合った基本的な滑降ができること。(D) 雪山でのマナーや自然環境の保全について説明、実践ができる。(D) 安全で正確なスキーおよびスノーボードの操作ができること。(D)
キーワード	ボーゲン、パラレル、ウエーデルン、斜滑降、横滑り、サイドターン、カービング
成績評価(合格基準60)	総合滑降(70%)、マナー、安全への態度、知識(30%)
関連科目	生涯スポーツ、健康の科学、スポーツとフィールド科学
教科書	適宜指示する
参考書	適宜指示する
連絡先	B3号館 3階 西村(次)研究室
注意・備考	後期集中講義(実習場所:北海道のスキー場で行う(4泊5日)。事前に説明会(4月)を実施するので希望者は必ず参加のこと。科目特性により、50名を受講者数の上限とする。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア実践指導 (FB36S210)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしのり*), 高見寿*(たかみひさし*), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 米田稔(よねだみのる), 高原周一(たかはらしゅういち), クルモフバレリー(くるもふばれりー)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また理科大学認定資格：科学ボランティアリーダーの詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各グループで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベントで講師として科学ボランティア活動を2時間以
------	--

	上実践する（現地での準備時間等を含む。ただし40分以上の教室形式、またはサイエンスショーを実践する）ことができるようになること。またこの科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実施できるようになること。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（科学ボランティアセンターの単位認定方針B「科学ボランティア活動を自ら展開する能力を身につける」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。2) 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。3) 科学実験教室や科学実験ショーの実施に必要な科学的知識を習得することができる。4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につけている。
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60	毎回の授業において自己の活動をレポートとして提出する。報告書の記載内容は、(1)活動日時・場所・実働時間、(2)活動内容(詳細に)、(3)活動の自己評価(400字程度)などである。イベントでの評価は、活動報告書とともに教員の評価ならびに受講生相互の評価も加味する。評価の配分はつぎのとおり 1) 毎回の準備活動状況(報告書に基づく) 20%、 2) 企画書の内容 20% 3) 実践活動(教員の評価ならびに受講生相互の評価) 20%、 4) 事後報告書 20%、 5) 読書感想文 20%
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5 階電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認のこと○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1 階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐している。
注意・備考	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（＝初回の講義）には必ず出席すること。・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。 「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」・この授業は、受講者の主体的な活動（アクティブ・ラーニング）により成り立っているため、積極的に活動すること。・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア実践指導 (FB36Z210)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしのり*), 高見寿*(たかみひさし*), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 米田稔(よねだみのる), 高原周一(たかはらしゅういち), クルモフバレリー(くるもふばれりー)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また理科大学認定資格：科学ボランティアリーダーの詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各グループで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベントで講師として科学ボランティア活動を2時間以
------	--

	上実践する（現地での準備時間等を含む。ただし40分以上の教室形式、またはサイエンスショーを実践する）ことができるようになること。またこの科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実施できるようになること。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（科学ボランティアセンターの単位認定方針B「科学ボランティア活動を自ら展開する能力を身につける」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。2) 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。3) 科学実験教室や科学実験ショーの実施に必要な科学的知識を習得することができる。4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につけている。
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60	毎回の授業において自己の活動をレポートとして提出する。報告書の記載内容は、(1)活動日時・場所・実働時間、(2)活動内容(詳細に)、(3)活動の自己評価(400字程度)などである。イベントでの評価は、活動報告書とともに教員の評価ならびに受講生相互の評価も加味する。評価の配分はつぎのとおり 1) 毎回の準備活動状況(報告書に基づく) 20%、 2) 企画書の内容 20% 3) 実践活動(教員の評価ならびに受講生相互の評価) 20%、 4) 事後報告書 20%、 5) 読書感想文 20%
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5 階電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylogで確認のこと○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1 階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐している。
注意・備考	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（＝初回の講義）には必ず出席すること。ガイダンスの日時・場所は教務の掲示板に張り出す。・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。日程はチームごとに担当教員と相談して決定する。・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。 「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」・この授業は、受講者の主体的な活動（アクティブ・ラーニング）により成り立っているため、積極的に活動すること。・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア活動 (FB36Z220)
英文科目名	Science Educational Volunteer Activitie
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 衣笠哲也(きぬがさてつや), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしのり*), 高見寿*(たかみひさし*), 岡本弥彦(おかもとやすひこ), 加藤賢一(かとうけんいち), 重松利信(しげまつとしのぶ), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 猪口雅彦(いのぐちまさひこ), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 米田稔(よねだみのる), 高原周一(たかはらしゅういち), クルモフバレリー(くるもふバレリー), 菅野幸夫(かんのさちお)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	科学ボランティア活動の進め方および成果発表会について説明する。 科学ボランティアリーダー資格認定について説明する。 (高原 周一)
2 回	地域で24時間以上の科学ボランティア活動を行う。この中で少なくとも1回は、科学ボランティア実践指導 および で扱ったテーマ以外で、科学教室(サイエンスショーも含む)の講師もしくはブース出展責任者を務めること。 (高原 周一)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティア活動証明書、活動報告書、科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を提出する。成果発表会の発表内容を調整するとともに、発表準備を行う。企画書およびプレゼンテーション用資料を作成する。 (高原 周一)
15 回	成果発表会を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、本学の「科学ボランティアリーダー養成事業」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	参加する科学ボランティア活動の事前申請および準備を行うこと。活動参加後に所定の様式で報告書を作成し、速やかに科学ボランティアセンターまで提出すること。(標準学習時間各回90分)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を作成すること。こ

	れまでの科学ボランティア活動について総括し、振り返りレポートを作成すること。発表会での発表内容について考えておくこと。（標準学習時間90分）
15回	企画書を作成すること。成果発表会の準備を行くこと。成果発表会で行う実験・工作等については、必ず事前に予行演習をしておくこと。（標準学習時間90分）
講義目的	地域で開催される科学イベントや科学実験教室にボランティアとして参加することで地域の科学教育振興に貢献するとともに、科学ボランティア活動に必要な能力および社会人として必要な汎用的能力の向上を図る。最後に、これまでの科学ボランティア活動のまとめとして成果発表会を行う。なお、この成果発表会は科学ボランティアリーダー資格認定の最終試験を兼ねる。（科学ボランティアセンターの単位認定方針B「科学ボランティア活動を自ら展開する能力を身につける」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学教育振興に貢献する意欲をもつ。 2) 科学実験教室や科学イベントを自ら企画・運営することができる。 3) 科学実験教室や科学イベントで使える教材を5つ以上知っている。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などをもっている。
キーワード	地域貢献 科学イベント 科学実験教室 成果発表会 科学ボランティアリーダー
成績評価（合格基準60	本学および地域で行った科学ボランティア活動の活動時間・件数（20%）、活動報告書（20%）、振り返りレポート（10%）、成果発表会の企画書（10%）、発表内容（40%）により評価する。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
注意・備考	・この科目は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。 ・成果発表会までに科学ボランティア活動の活動時間数が24時間に達する見込みのある学生が履修すること。 ・科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導 の単位を修得済か履修中であることが望ましい。 ・科学ボランティア活動部分（2～13回目）については1年次から活動を認める。ただし、科学ボランティア活動の説明会（科学・工作ボランティア入門の講義の1回目）に参加するか科学ボランティアセンターでの講習を受けた後に活動すること。 ・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（日時・場所は教務の掲示板に張り出す）に必ず出席すること。 ・科学ボランティア活動、成果発表会での発表によりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会における教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	健康の科学 (FV26P110)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	高橋正行 * (たかはしまさゆき *)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康と科学 講義の概要説明、健康の考え方を説明する。
2 回	健康な大学生活を送るための食生活を説明する。
3 回	健康なからだづくりの基本について説明する。
4 回	バランスのとれた食事と太りにくい食べ方のこつについて説明する。
5 回	生活習慣病について説明する。
6 回	健康的に体重を減らす、増やすについて説明する。
7 回	運動の重要性について説明する。
8 回	水分補給の大切さ・熱中症の原因と対策について説明する。
9 回	健康と睡眠について説明する。
1 0 回	充実した学生生活を送るためのメンタルヘルスについて説明する。
1 1 回	東京オリンピックの様々な効果について説明する。
1 2 回	生涯スポーツの意義について説明する。
1 3 回	サイクリングと健康について説明する。
1 4 回	健康的な学生生活について説明する。
1 5 回	講義の振り返りとまとめをする。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義内容を把握し、健康について考えておくこと。
2 回	今後の食生活について考えておくこと。
3 回	からだづくりについて自分の健康観を考えておくこと。
4 回	食生活の見直しをしてみること。
5 回	ライフスタイルがキーポイントになることを理解しておくこと。
6 回	体重と健康の関係について調べておくこと。
7 回	体重の変化を調べてみること。
8 回	日常生活の中での水分補給の重要性を調べてみること。
9 回	眠りの質について調べてみること。
1 0 回	ストレスとストレスマネジメントについて調べてみること。
1 1 回	東京オリンピックについているんな角度からメリットやデメリットを調べてみること。
1 2 回	生涯スポーツと健康の関連について調べてみること。
1 3 回	今治がなぜサイクリングの聖地と言われるのか調べてみること。
1 4 回	春からの学生生活を振り返ってみること。
1 5 回	ノートを整理しておくこと。
1 6 回	1 ~ 1 5 までの内容をよく理解して整理しておくこと

講義目的	健康の要素として、「心（精神）」「身体」「社会との関わり」があげられ、それぞれ密接な関係をもっている。これらの基礎的な知識や実践力を身につけて、生涯を通じて健康の保持・増進に関わる態度や能力を養う。授業内容は、健康の考え方、現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康、スポーツの歴史と文化、スポーツと現代社会、運動と体力、スポーツと生活について考察し、生涯にわたるヘルスプロモーション能力を養う。 (単位認定の方針Dに強く関与する)
達成目標	身体的にも精神的にも社会的にも良好で生き生きとした状態を積極的に得るために、ライフステージからみた健康と運動についての基礎的な知識を習得する。 1 健康を支える基礎的な知識を習得する。 2 身体運動についての理解を深め、健康における運動の重要性を理解する。 3 学生としての健康と自分の住む街について理解を深める。
キーワード	健康、運動
成績評価 (合格基準60)	課題レポート 3 0 %、最終評価試験 7 0 % で評価する。採点の基準は 6 0 点以上を合格とする。
関連科目	生涯スポーツ

教科書	教科書は使用しない。プリント等を使用。
参考書	適宜紹介する
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
注意・備考	
試験実施	実施する